

医史学関係文献目録 (五十音順)

昭和六十三(一九八八)年

- | | | | |
|----|-----------|----|--------|
| 19 | 細菌学史 | 38 | 地方史 |
| 18 | 外科史 | 37 | 生理学史 |
| 17 | 形成外科史 | 36 | 生化学史 |
| 16 | 軍陣医学史 | 35 | 西洋医学史 |
| 15 | 教室史 | 34 | 生物学史 |
| 14 | 寄生虫学史 | 33 | 精神医学史 |
| 13 | 看護史 | 32 | 整形外科史 |
| 12 | 眼科史 | 31 | 診断学史 |
| 11 | 解剖学史 | 30 | 神経学史 |
| 10 | 衛生・公衆衛生史 | 29 | 小児科史 |
| 09 | 医療制度史・医療史 | 28 | 書誌学 |
| 08 | 医療器械 | 27 | 書簡 |
| 07 | 医の倫理 | 26 | 獣医学史 |
| 06 | 医史学一般 | 25 | 種痘史 |
| 05 | 医師会・学会 | 24 | 耳鼻咽喉科史 |
| 04 | 医学用語 | 23 | 疾病史 |
| 03 | 医学教育 | 22 | 史跡・記念碑 |
| 02 | 医学切手・書画 | 21 | 齒学史 |
| 01 | 単行本 | 20 | 産婦人科史 |

- | | | | |
|----|----------|----|-------------|
| 39 | 治療史 | 51 | 法医学史 |
| 40 | 伝記 | 52 | 放射線医学史 |
| 41 | 伝記(双) | 53 | 本草学・博物学史 |
| 42 | 伝染病史・防疫史 | 54 | 麻醉学史 |
| 43 | 東洋医学史 | 55 | 門人録 |
| 44 | 内科史 | 56 | 薬学史 |
| 45 | 皮膚科史 | 57 | 蘭学史 |
| 46 | 病院史 | 58 | リハビリテーション関係 |
| 47 | 病跡学 | 59 | その他 |
| 48 | 病理学史 | 60 | 中国語文献 |
| 49 | 風俗史 | 61 | 欧文文献 |
| 50 | 仏教医学史 | | |
- 今回は14、15、17、20、27、30、34、35、37、48、50、51、52にあたる文献はありません。

単行本

- 『漢方薬』(日本の技術) 赤堀昭 監修 日本産業技術史学会 第一法規出版
- 『江戸のオランダ医』石田純郎 三省堂選書 三省堂
- 『蘭学の背景』石田純郎 思文閣出版
- 『江馬細香来簡集』江馬文書研究会 思文閣出版
- 『大阪市立大学医学部四〇年史』大阪市立大学医学部創立四〇周年事業委員会 大阪市立大学
- 『千葉の牛頭天王(改訂版)』大谷克己 大谷克己教授退官記念会

- 『念々草 伴俊夫教授の想い出』岡田孝男、齊藤脩
 『明治前期法医学編年資料断章』小関恒雄 小関恒雄
 『切手に見る歯科医学』梶山登 梶山登
 『コレラ騒動・病者と医療』鹿野政直編 朝日新聞社
 『栗原弘追悼・遺稿集』看護の科学社 看護の科学社
 『洋学資料による日本文化史の研究(一)』中山沃・石田純郎ら 吉備洋学資料研究会
 『シーボルトと日本』京都国立博物館ら 朝日新聞社
 『宇田川榕庵の楽律資料を巡って』草下實 津山洋学資料館
 『生きる条件(増補改訂・五版)』久保全雄 労働旬報社
 『碩滴(定年退官記念)』小石秀夫 小石秀夫
 『佐伯地区医師会誌 佐伯郡医会百周年記念特集号』佐伯地区医師会 佐伯地区医師会
 『師会広報委員会 佐伯地区医師会』
 『検査を築いた人びと』酒井シヅ、深瀬泰且 時空出版
 『蘭方医村上随憲』篠本弘明 境町地方史研究会
 『白井光太郎著作集第五巻植物採集紀行・雑誌』白井光太郎 木村陽二郎編集 科学書院
 『橋本左内』白崎昭一郎 毎日新聞社
 『戦争栄養失調症関係資料』清水勝嘉 不二出版
 『医学近代化と来日外国人』宗田一、蒲原宏、長門谷洋治、石田純郎編 世界保健通信社
 『日本の臨床検査史―その起源と発達―』寺畑喜朔 臨床病理刊行会(金原出版発売)
 『医療の文明史(NHK市民大学)』中川米造 日本放送出版協会

- 『緒方洪庵の妻』西岡まさ子 河出書房新社
 『医の民族』根岸謙之助 雄山閣出版
 『ともし承ぎきし三五年』日本看護協会大阪府支部 日本看護協会大阪府支部
 『思い出の記』服部敏良 服部敏良
 『伊豫宇和島藩医林道仙家譜資料』林敏
 『陸軍軍醫學校五十年史(復刻版)』船橋治 不二出版
 『医薬品発見・命名小事典』桜井寛 薬事新報社
 『講演会記録No.1(芝哲夫「オランダと日本をつないだ科学のかげ橋」他)』津山洋学資料館 津山洋学資料館
 『健康のいしづえ―富田林保健所五〇年史―』富田林保健所五〇年史編集委員会 大阪府富田林保健所
 『広島県の医師群像(其の四) 漆山と片山病』阪田泰正
 『福井県医師会創立一〇〇年の沿革』福井県医師会 福井県医師会
 『シーボルトの日本史』布施昌一 木耳社
 『宮城県医師会創立百年記念誌』宮城県医師会 宮城県医師会
 『医療と宗教』山中太木 医道顕彰会
 『コンサイス科学年表』湯浅光朝 三省堂
 『イェズス会士関係著訳書の基礎的研究 昭和六十二年科学研究所報告書』研究代表者 吉田忠
 『赤十字の創始者、アンリ・デュナン』ピエール・ボワシェ 田成美訳 蒼生出版
 『医学切手・書画』

「切手で見る免疫血液学(一七) 遅延型アレルギーの発見」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(一) 五二

「切手で見る免疫血液学(一八) BCGと癌免疫療法」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(一) 一一七

「切手で見る免疫血液学(一九) 赤血球の発見」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(一) 一三三

「切手で見る免疫血液学(二〇) 循環系の発見」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(三) 一六八

「切手で見る免疫血液学(二一) 受動免疫の発見」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(三) 一八〇

「切手で見る免疫血液学(二二) 食作用の発見」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(四) 二四六

「切手で見る免疫血液学(二三) ABO 式血液型と卵巣腫」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(四) 二五七

「切手で見る免疫血液学(二四) 直接輸血法」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(五) 二九二

「切手で見る免疫血液学(二五) 血液銀行」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(五) 三〇四

「切手で見る免疫血液学(二六) HIV」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(六) 三五八

「切手で見る免疫血液学(二七) 成分輸血療法」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(六) 三七七

「切手で見る免疫血液学(二八) 血漿分画製剤」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(七) 四二四

「切手で見る免疫血液学(二九) R₂ 式血液型の発見」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(七) 四四二

「切手で見る免疫血液学(三〇) 移植」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(八) 五〇一

「切手で見る免疫血液学(三一) 血液染色法」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(八) 五〇四

「切手で見る免疫血液学(三二) 化学療法」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(九) 五三三

「切手で見る免疫血液学(三三) 抗体産生論」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(九) 五四一

「切手で見る免疫血液学(三四) 輸血検査と蛋白分解酵素」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(一〇) 五九七

「切手で見る免疫血液学(三五) 母乳と感染症」河瀬正晴 Medical Postgraduates 二六(一〇) 六〇六

「医学と薬学のシンボル(紋章)」古川明『日仏医学』一九(一) 一〜二〇

「日本における医学のシンボル『アスクレピオスの杖』の受容」古川明『日本医史学雑誌』三四(二) 二七八〜二九三

医学教育

「オランダ領東インドの医学教育」D・ド・ムーラン 石田純郎 訳 増補『医学史研究』(六一) 二二〜三〇

「兵庫県立神戸医学校・同薬学校資料(二)」宗田一『医学史研究』(六一) 三二〜四一

「野間科学医学研究資料館発足の経緯(一) (一) 日本古医学資料セ

ンターと太田典礼博士」志柿亨『科学医学資料研究』(一七五) 九〜二

「都立府中リハビリテーション」専門学校一九九年の歩み(抄)「松房利憲ら『作業療法』七(二)五二九〜五三〇

「済生學舎発祥の地」大森暢久『順天堂医学』三四(二)二四四〜二四五

「成医会における William Willis の特別講義」松田誠『東京慈恵会医科大学雑誌』一〇三(四)九六七〜九六八

「東京慈恵医院医学校校友会、その誕生と挫折」校友会委員吉崎薫一の場合」松田誠『東京慈恵会医科大学雑誌』一〇三(五)一三三三〜一三三六

「成医会講習所の設立と福沢諭吉」松田誠『東京慈恵会医科大学雑誌』一〇三(六)一七五九〜一七六一

「日本における西洋医学教育の始まりと医薬分業の始まり(抄)」中室嘉祐『日本医史学雑誌』三四(一)六五〜六七

「地方医学校の設立と廃校(その一)大阪慈恵病院医学校(抄)」中山沃『日本医史学雑誌』三四(一)七四〜七六

「新潟医学校に関する規則(抄)」谷津三雄『日本医史学雑誌』三四(一)七六〜七八

「医学教育研究の温故知新(抄)」柴田幸雄『日本医史学雑誌』三四(一)一〇五〜一〇七

医学用語

「古典あれこれ Laimer の三角と Killian の三角」廣瀬肇

JOHNS 四(六)一一三四〜一一三六

「ことばの由来 三三」ブドウ糖液と食塩水」岩月賢一 JOHNS 四(九)一三五六〜一三五八

「古典あれこれ Darwin の本一表情について」飯沼壽孝 JOHNS 四(一〇)一五二二〜一五二四

「古典あれこれ 古典にみられる『鼻漏』のあれこれ」貝塚 侑 JOHNS 四(一一)一六三〇〜一六三三

「古典あれこれ Plummer 病」堀内正敏 JOHNS 四(一二)一八〇四〜一八〇六

「日本における精神病学用語の変遷」岡田靖雄『精神神経学雑誌』九〇(七)五七〇〜五七八

「病名の由来 黄熱病」酒井シヅ Medical Technology 一六(一)五五

「病名の由来 猩紅熱」酒井シヅ Medical Technology 一六(四)三四二

「病名の由来 貧血」酒井シヅ Medical Technology 一六(五)三八九

「R・オウエンの歯の硬組織名称の命名補遺(抄)」本間邦則『日本医史学雑誌』三四(一)一〇一〜一〇二

「官版・独逸単語篇」のドイツ語について」高橋輝和『洋学資料による日本文化史の研究』I 五七〜八二

医師会・学会

「国際整形災害外科学会」石原理年『醫譚』(五六)一九

「日本医史学会関西支部創立五十周年」『醫譚』(五六)二〇〜

二四

「医師会風土記」⑧、「阿淡産志の成立と発見」⑩「福島義
一『徳島県医師会報』(二〇二)～(二二二) (二〇二)二九～
三〇(二〇三)二七～二八(二〇四)四七～四八(二〇五)
三二～三五(二〇六)三三～三六(二〇七)二一～二四(二〇九)
二七～二九(二一〇)一八～二〇(二一一)二二～二四
(二一二)五二～五四

「日本気管支学会二〇年のあゆみ」於保健吉、沖津宏『気管支学』
九(四)三〇〇～三一

「日本医師会小史(第四七回)不況の到来に薬価の値下げで対
抗」青柳精一『日本医師会雑誌』九九(一)一二五～一二七

「日本医師会小史(第四八回)日本医界刷新連盟が結成さる」青
柳精一『日本医師会雑誌』九九(三)四六二～四六四

「日本医師会小史(四九回)過怠金請求をめぐる民事訴訟―八王
子事件・その一―」青柳精一『日本医師会雑誌』九九(五)
八六六～八六七

「日本医師会小史(第五〇回)過怠金請求をめぐる民事訴訟―八
王子事件・その二―」青柳精一『日本医師会雑誌』九九(七)
一一二四～一一二六

「日本医師会小史(第五一回)過怠金請求をめぐる民事訴訟―八
王子事件・その三―」青柳精一『日本医師会雑誌』九九(九)
一六四九～一六五一

「日本医師会小史(第五二回)暗い世相と北里会長の急逝」青柳
精一『日本医師会雑誌』九九(一一)一九七五～一九七七

「日本医師会小史(第五三回)『医界空前の盛典』であった北里会

長の葬儀」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇(一)一二三～
一二五

「日本医師会小史(第五四回)側近が語る日医会長・北里の横
顔」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇(三)四〇九～四一一

「日本医師会小史(第五五回)『医制』発布前後の医界事業―医師
会前史その一―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇(五)
七六七～七六九

「日本医師会小史(第五六回)『医制』の施行と秋田県医則―医師
会前史・その二―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇(七)
一〇九二～一〇九四

「日本医師会小史(第五七回)衛生行政組織の整備と開業医組合
―医師会前史・その三―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇
(九)一四五四～一四五六

「日本医師会小史(第五八回)有志医師による医会結成の動き
―医師会前史・その四―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇
(一一)一七七〇～一七七一

「日本医師会雑誌」のあゆみ(上)創刊から昭和二〇年代後半ま
で「青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇(一)二七～三一
『日本医師会雑誌』のあゆみ(下)昭和二〇年代後半から現在ま
で」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇〇(三)四二二～四二七

「日本医師会の紋章を考える」古川明『日本医事新報』
(三三六四)六二～六五

医史学一般

「医学思想の伝統と未来 (二)日本の仏教思想史と関連して

(二) 西洋の古代思想史と関連して (三) キリスト教・ヒューマニズムと関連して (抄)「奈倉道隆ら『医学哲学 医学倫理』(六) 一〇三～一三〇

「医学史を訪ねて医学を知る」酒井シツ CLINIC magazine (三) 一八～二四

「世界の医療文化史(五五)～(六五) 五 興隆の世紀」宗田 一 Pharma Medica 六 (一) 一一三～一二七、六 (三) 一九八～二〇二、六 (四) 一三〇～一三四、六 (五) 一三七～一四三、六 (六) 一八六～一九一、六 (七) 一六七～一七三、六 (八) 一五八～一六四、六 (九) 一七九～一八五、六 (一〇) 一三二～一三八、六 (一一) 二〇三～二〇八

医の倫理

「特集／現代の生命像 医療における生命像」中川米造『あいみ』一 一九 (三) 一九～二二

「医学倫理学の将来像」馬文元、彭慶星『医学学研究』(岩手医科大学医学事研究会) (三) 三四四～三五二

「医療と倫理(第六回) 往生術 ターミナルケアの原型」立川昭二『からの科学』(一三九) 一〇一～一〇五

「医は仁術 中国の医学書にみられる医の倫理」山本 徳子 Medical Way 五 (五) 一七五～一七八

「ヒポクラテスの『誓い』を読む(一)」川田殖『山梨医大紀要』(五) 四一～四七

「遠西医範と西説医範の比較研究」中山沃『洋学資料による日本文化史の研究一』一九～二八

医療器械

「顕微鏡の歴史」古屋武吉 Medical Technology 一六 (一) 六～一一

医療制度史・医療史

「明治初期の医師数の推移」深瀬泰旦『科学医学資料研究』(一七〇) 六～七

「明治五年の『学制』における『養生法』設置の背景」田中喜久恵、森昭三『学校保健研究』三〇 (三) 一一二～一三三

「昭和医療史(一) あわただしく『大正』から『昭和』へ」野村拓『月刊保団連』(二七六) 八〇～八三

「昭和医療史(二) 健康保険制度のからくり」野村拓『月刊保団連』(二七八) 九〇～九三

「昭和医療史(三) 寄付講座の登場」野村拓『月刊保団連』(二七九) 九〇～九三

「昭和医療史(四) 乳児死亡と警察行政」野村拓『月刊保団連』(二八一) 八九～九二

「昭和医療史(五) 行きづまりの時代」野村拓『月刊保団連』(二八二) 八四～八七

「昭和医療史(六) 満州事変と医療」野村拓『月刊保団連』(二八四) 八八～九一

「昭和医療史(七) 出揃った問題」野村拓『月刊保団連』(二八七) 八二～八五

「昭和医療史(八) 人口問題の変ぼう」野村拓『月刊保団連』(二八九) 七六～七九

「昭和医療史(九) 保健国策」野村拓『月刊保団連』(二九一) 八八〜九〇

「昭和医療史(二〇) 蘆溝橋事件・前後」野村拓『月刊保団連』(二九三) 八四〜八七

「昭和医療史(一一) 総動員体制と医療」野村拓『月刊保団連』(二九四) 八四〜八七

「百年前の医療史」江川義雄『佐伯郡医会百周年記念特集号』二二〜四三

「明治の医会診療規定について」中川長一『静岡県医史学懇話会会誌』(四) 一九〜二六

「愛育村医療活動の一事例 神奈川県中郡高部屋村(抄)」奥富敬之『日本医史学雑誌』三四(一) 一一六〜一一九

「日本医療思想の源流(抄)」長瀬治『日本医史学雑誌』三四(一) 一一〇〜一一二

「阿片委員会について(抄)」清水勝嘉『日本医史学雑誌』三四(一) 一一〇〜一一一

「日本医療団(第二報) 戦中・戦後の活動と一般体系のモデルケース・新潟県(抄)」佐久間温巳『日本医史学雑誌』三四(一) 一一三〜一一六

「『馬琴日記』にあらわれた病氣と医療―滝沢みちを中心に―」立川昭二『日本医史学雑誌』三四(二) 二六三〜二七七

「私立大日本婦人衛生会について―明治三〇年より明治三三年まで(抄)―」亀山美知子『日本看護学会一九回集録』一〇九〜一一一

「大日本私立衛生会の看護婦養成について―明治三〇年代前半を中心に(抄)―」遠藤恵美子『日本看護学会一九回集録』一〇六〜一〇八

「心をめぐる医学の歴史(五)―十六世紀から十七世紀へ―」大村敏郎『ハートナッシング』一(五) 四八四〜四八九

「診療報酬物語(四八)〜(五〇) 医界を震撼させた伝染病研究所移管事件(その一)〜(その三)」青柳精一『ばんぶう』(八七) 一六〇〜一六二、(八八) 一三八〜一三九、(八九) 一六〇〜一六二

「診療報酬物語伝研移管の背景 北里の学問的業績」青柳精一『ばんぶう』(九〇) 一六〇〜一六一

「現代中国の薬事制席―中华人民共和国药品管理法―」森茂『明治薬科大学研究紀要』二八 九三〜一二三

「日本の医療史(六三) (六四) 酒井シヅ『薬事新報』(一四八〇) 三九二〜三九六、(一五〇六) 一〇三二〜一〇三五

衛生・公衆衛生史

「国家医学会と工業衛生」松藤元『医史学研究』(六一) 一〜九

「鉛中毒の歴史(一) 古代ローマの水道と鉛中毒」三浦豊彦『科学医学資料研究』(二六六) 一〜七

「鉛中毒の歴史(二) 古代・中世の鉛中毒」三浦豊彦『科学医学資料研究』(二七〇) 一〜五

「鉛中毒の歴史(三) 十六世紀以降の鉛中毒」三浦豊彦『科学医学資料研究』(二七四) 六〜一一

「中世ヨーロッパの衛生思想“Six Nonnaturals”とナイチンゲール

ルの看護思想について」平尾真智子『綜合看護』二三(三)七
〇

「石綿産業の衛生問題の歴史(抄)」三浦豊彦『日本医史学雑誌』
三四(一)三三〇三三五

「友子同盟・労働組合と労働者保護―煙毒・塵肺を中心として―」
三浦豊彦『日本医史学雑誌』三四(二)一四八〇一六五

「後藤新平の衛生行政論の一貫性について」日野秀逸『日本医史
学雑誌』三四(三)三五七〇三五八

「総合健診史・拾遺」三輪卓爾『日本医史学雑誌』三四(三)
五〇六〇五一四

「後藤新平『命価説』に関する研究」日野秀逸『日本医史学雜
誌』三四(四)五六八〇五八四

「人間ドックの歴史三 (五)人間ドックの発足 (六)人間ドックはス
ラングか」三輪卓爾 *BIO medica* 三(一)八六〇九一

「砒素中毒の歴史」三浦豊彦『労働科学』六四(一)一〇二五
「明治前期の衛生行政機構に就いて」福留祥子『労働科学』六四
(八)三六九〇三九二

解剖学史

「古代ギリシアにおける系統解剖の進展と人間観・身体観の変
遷」近藤均『医学哲学 医学倫理』(六)六七〇七九

「清涼寺釈迦如来像五蔵内臓模型の知見補遺」(そのX線の所見
について)高木重彦、吉田弘『啓迪』(六)一〇九

「外表奇形の臨床診断学・治療学 歴史にみる先天奇形」谷村孝
『小児内科』二〇(九)一三三三〇一三三二〇

「静岡県における明治初期の解剖」土屋重朝『静岡県医史学懇話
会誌』(四)一一〇一八

「解体新書」と内喉頭筋「広瀬肇」JOHNS 四(四)六二六〇
六二八

「解剖用女性人体模型とS・エルドリッジの手紙(抄)」松木明知
『日本医史学雑誌』三四(一)八六〇八七

「京都府立医科大学における解剖体について(抄)」山田久夫『日
本医史学雑誌』三四(一)八一〇八三

「腹腔動脈の解剖学的研究の歴史(一)ハラ―を中心(抄)」沢
野啓一『日本医史学雑誌』三四(一)一二五〇一二八

「北陸の解剖略史」寺畑喜朝『日本医史学雑誌』三四(一)
一八七〇二〇一

「献体あれこれ」中井精一『北陸医史』九(一)三〇九
「把而翁溼解剖図譜について」松田健史、正橋剛二、畠山美苗、
塩刈富士美『北陸医史』九(一)二六〇二九

「ポートルートでたどる形態学の歩み(一)〜(四)」河西達夫『ミ
クロスコピア』(五)一四八〇五一、(五)二一〇〇〜
一一三、(五)三一七二〇一七三、(五)四二二二〇二三五

「遠西医範と西説医範の比較研究」中山沃『洋学資料による日本
文化史の研究』一 一九〇二八(吉備洋学資料研究会)

眼科史

「白内障手術小史(一)〜(四)」竹内光彦『眼科』三〇(一)
一八三〇一八八、三〇(三)二八九〇二九三、三〇(四)

四七三〇四七七、三〇(五)五六五〇五六七

「医学史上に散見する眼科 (No三五) 近世ヨーロッパ (七) (一) づき」飯沼巖『銀海』(一一五) 三八〜四〇

「医心伝診(四) 永吉の眼科の系譜(千葉県茂原市)」『みどり』編集部『みどり』三(四)二〇〜二一

「眼科学病名の変遷(病名史)(抄)」奥沢康正『日本医学史学雑誌』三四(一)一〇四

「白内障と云う病名のルーツ 病名史(その六)」奥沢康正『日本の眼科』五九(二)一〇三〜一〇七

「結膜異物・角膜異物のルーツを訪ねて(一)」奥沢康正『日本の眼科』五九(五)四四三〜四五一

「結膜異物・角膜異物のルーツを訪ねて(二)」奥沢康正『日本の眼科』五九(六)五二七〜五三〇

「傳氏眼科審視瑤函」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(一)七四〜七五

「銀海精微」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(一)一八八〜一八九

「原機啓微」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(三)三〇〇〜三〇一

「一草亭目科全書」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(四)四四四〜四四五

「秘伝眼科全書」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(五)五九二〜五九三

「新編鴻飛集論眼科 太医院伝七十二症明目仙方」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(六)七三八〜七三九

「青囊完璧」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(七)八九四〜八九五

「眼科約説」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(八)一〇一〇〜一〇一一

「眼科必携(須准氏眼科必携)」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(九)一〇八八〜一〇八九

「シュルツェ眼病論」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(一〇)一一九八〜一九九

「眼科要論」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(一一)二九二〜二九三

「眼科提要」中泉行信、中泉行史、齋藤仁男『臨床眼科』四二(一二)三九二〜三九三

看護史

「ナイチンゲールを読む(二)」ナイチンゲール像の再検討」石田純郎 Expert Nurse 四(五)一三三〜一三七

「ナイチンゲールを読む(一三) ナイチンゲール誓詞の謎」石田純郎 Expert Nurse 四(七)一四一〜一四五

「手術昔ばなし GHQの管理講習会から戦後の看護が再出発」高須婦美子『オペレーション』三(九)七六

「日本の看護の歴史(六)(前近代六)」看護歴史研究会『看護教育』二九(一)五二〜五五

「日本の看護の歴史(七)(前近代七) 近世の医療と看護」看護歴史研究会『看護教育』二九(二)一一六〜一二二

「日本の看護の歴史(八)(前近代八)」看護歴史研究会『看護教育』二九(三)一七六〜一八二

育』二九(三)一八〇～一八一

「日本の看護の歴史(九)(近代)」明治初期の医療と看護「看護歴史研究会『看護教育』二九(四)二四四～二五一

「日本の看護の歴史(二〇)(近代二)近代看護の成立」看護歴史研究会『看護教育』二九(五)三〇八～三一五

「日本の看護の歴史(二一)(近代三)」看護歴史研究会『看護教育』二九(六)三七四～三八一

「日本の看護の歴史(二二)(近代四)」看護歴史研究会『看護教育』二九(七)四三六～四四三

「日本の看護の歴史(二三)(近代五)」看護歴史研究会『看護教育』二九(八)四九八～五〇三

「日本の看護の歴史(二四)(近代六)」看護歴史研究会『看護教育』二九(九)五六二～五七一

「日本の看護の歴史(二五)(現代一)」看護歴史研究会『看護教育』二九(一〇)六二四～六三一

「日本の看護の歴史(二六)(現代二)」看護歴史研究会『看護教育』二九(一一)六九二～六九九

「日本の看護の歴史(二七)(現代三)」看護歴史研究会『看護教育』二九(一二)八九四～九〇一

「日本における近代的看護婦の養成と合衆国長老教会のかかわりについて 番町スクールを中心に(三)」亀山美知子『看護展望』一三(一)九三～一〇〇

「日本における近代的看護婦の養成と合衆国長老教会のかかわりについて 番町スクールを中心に(四)」亀山美知子『看護展

望』一三(三)三七七～三八七

望』一三(三)三七七～三八七

「東京府病院産婆教授所の設立とその特質(第三報) 従来営業者の教育と試験(抄)」高橋みや子『日本看護学会一九回集録』(看総合)一〇二～一〇五

「埼玉県下明治期における産婆の動向(抄)」安部京子ら『日本看護学会一九回集録』一一二～一一四

「戦後埼玉の看護史(第五報) 新しい看護教育への取組み(抄)」五十嵐節『日本看護学会一九回集録』一一五～一一八

「わが国の『看護管理』発展の経緯」大森文子『看護MOOK』(二九)五～一二

「戦後二年目、地方の看護婦の発言」長門谷洋治『日本医事新報』(三三五四)九七

「助産婦の歴史(六〇)」石原力『ペリネイタルケア』七(八)一一二九～一一三〇

「大阪府保健所保健婦の歴史(六) 保健所創立期(六) 全国社会保健婦大会 戦前・戦中の保健婦教育(その一)」衛保会歴史部会『保健婦雑誌』四四(二)一四八～一五五

「明治の陸軍軍医学校 校長石黒忠恵・教官森林太郎」坂本秀次『医学史研究』(六一)一〇～二一

「明治初期における軍医団と広島医学会との関係(抄)」江川義雄『日本医学雑誌』三四(一)七〇～七一

「第一次大戦前後における野戦病院(抄)」黒澤嘉幸『日本医史学雑誌』三四(一)一一二～一一三

「第一次大戦前後における野戦病院(抄)」黒澤嘉幸『日本医史学雑誌』三四(一)一一二～一一三

「第一次大戦前後における野戦病院(抄)」黒澤嘉幸『日本医史学雑誌』三四(一)一一二～一一三

「日露戦争における野戦病院」黒澤嘉幸『日本医史学雑誌』三四
(三)四三八～四七二

「陸上自衛隊衛生学校『彰古館』(上)(中)(下)近藤正太郎

『日本医事新報』(三三三八)五九～六〇、(三三三九)六二～
六四、(三三四〇)六四～六五

「陸軍軍医中将芳賀栄次郎博士に関する研究(第一報)北清事
変及びそれ以降の業績について」片岡義雄『防衛衛生』三五
(五)一九三～二〇三

外 科 史

「外科史の点と線(抄)」大村敏郎『神奈川医学会雑誌』一五(一)
六〇

「胸部外科黎明期の思い出」関口一雄『胸部外科』四一(七)
五七九～五八〇

「手術室昔ばなし 塩田先生考案の縫合糸の製法」高須婦美子
『オペレーティング』三(七)七二

「和蘭陀外科免状(題發)アルマンズ流阿蘭陀外科之濫觴」岩治
勇一『日本医史学雑誌』三四(二)一六六～一七〇

「ヒルシュスブルング病研究三〇年の回顧」岡本英三『日本小児
外科学会雑誌』二四(五)一〇〇一～一〇〇八

「科学の前に姿を見せる自然」大村敏郎『臨床外科』四三(一)
一一〇

「パリの旧医学部館」大村敏郎『臨床外科』四三(二)一七六

「初代王立外科アカデミー会長ジャン・ルイ・プティの横顔」大
村敏郎『臨床外科』四三(三)三三五

「コルドリエ通りと外科史」大村敏郎『臨床外科』四三(四)
四五一

「サン・コーム外科医組合の円型講堂」大村敏郎『臨床外科』
四三(五)六八五

「聖コームたちの脚移植手術」大村敏郎『臨床外科』四三(七)
一〇四八

「フランス外科アカデミーのマーク」大村敏郎『臨床外科』四三
(八)一一三三

「医学アカデミーのヒポクラテス像」大村敏郎『臨床外科』四三
(九)一二二五

「医学アカデミーの会長たち」大村敏郎『臨床外科』四三(一〇)
一四五五

「オテル・デュ病院のデュビュイトラン像」大村敏郎『臨床外
科』四三(一一)一六四〇

「リフスランの墓」大村敏郎『臨床外科』四三(一二)一八一

「元祖ラレーの救急車」大村敏郎『臨床外科』四三(一三)
一九五八

細菌学史

「ヘンリー・コブリックが百日咳患者から分離した桿菌」深瀬泰
旦『日本医史学雑誌』三四(四)五五三～五六七

歯 学 史

「『諸病源候論』における歯病の医説に関する考案(抄)」戸出
一郎『日本医史学雑誌』三四(一)二二三～二五

「入歯師と入眼師(抄)」新藤恵久『日本医史学雑誌』三四(一)

「Wells の残した駁論」中原泉『日本歯科医史学会会誌』一四

(II) 1101~1114

「房楊枝の歯磨き効果について」本間邦則、泉田亮助『日本歯科医史学会会誌』一四(三) 215~218

「諸病源候論」における歯病の分類について その一 歯痛

候、牙痛候、歯痛候について 佐藤恭道、別部智司、戸出一郎

『日本歯科医史学会会誌』一四(三) 219~221

「医心方」における歯痛の分類について 戸出一郎、別部智司、

佐藤恭道『日本歯科医史学会会誌』一四(三) 223~227

「最初に英語で書かれた歯科医学書(その六) Charles Allen: The

Operator for the Teeth の邦訳と注解(その四)」森山徳長『日

本歯科医史学会会誌』一四(三) 228~233

「十六世紀初頭にはじめてドイツ語で書かれた世界最初の歯科啓

蒙書にらう(その三) "Zene Artzney" 『歯のおくすり』の和

訳(一)」森山徳長『日本歯科医史学会会誌』一四(三) 234

~237

「十六世紀初頭にはじめてドイツ語で書かれた世界最初の歯科啓

蒙書について(その四) "Zene Artzney" 『歯のおくすり』の和

訳(三)」森山徳長『日本歯科医史学会会誌』一四(三) 238

~241

「麻醉学書誌学的研究(第二報) 喜多村敬次郎著『局所麻痺法

全』(大正五年刊)について」石橋肇、小池陽一郎、渋谷幸男、

谷津三雄『日本歯科医史学会会誌』一四(三) 243~247

「明治人名辞典にみられる歯科医師(第一報)」谷津三雄、大場重
信、村木春長、新国俊彦『日本歯科医史学会会誌』一四(三)
248~251

「高山紀斎著『保歯新論』および『歯の養生』について」森山徳
長、田辺明、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会会誌』
一四(四) 263~271

「高山紀斎著『歯科薬物摘要』について」森山徳長、西尾宏英、

石川達也『日本歯科医史学会会誌』一四(四) 272~276

「高山紀斎著『衛生保歯問答』について」森山徳長、小幡哲夫、

高添一郎『日本歯科医史学会会誌』一四(四) 277~283

「歯学史集談会—第一回から第四回—」谷津三雄『日本歯科医史

学会会誌』一四(四) 284~293

「雑誌『顕微鏡』にみられる歯科の記載」米長悦也、渋谷敏、石

橋肇、谷津三雄『日本歯科医史学会会誌』一四(四) 294~

300

「消毒法の歴史について」本間邦則『日本歯科医史学会会誌』

一四(四) 301~306

「高山歯科医学院編『歯科手術論』の書誌学」森山徳長、小幡哲

夫、長谷川正康『日本歯科医史学会会誌』一四(四) 307~

311

「高山歯科医学院編『歯科汎論』の書誌学」森山徳長、佐々木脩

浩、市之川武『日本歯科医史学会会誌』一四(四) 313~

317

「高山歯科医学院編『実用歯科器械学』の書誌学(抄)」森山徳

長、佐々木脩浩『日本歯科医史学会誌』一四(四)三一八〜

三二三

「高山歯科医学院編『歯科冶金学』の書誌学」森山徳長、熱田俊之助、西尾宏英『日本歯科医史学会誌』一四(四)三二四〜三二八

「日本大学の学祖山田顯義先生と医学」滝口久『日本歯科医史学会誌』一五(一)九〜三〇

「歯学史集談会のできるまで」谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)三一〜四六

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その一) 第一篇

花沢鼎纂訳『保存歯科学』について(抄)」森山徳長、田辺明、小幡哲夫、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会誌』一五(一)四七〜四八

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その二) 第二篇

ドクトル 榎本美彦著『全鎖嵌学』について(抄)」森山徳長、亀谷博昭、小幡哲夫、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会誌』一五(一)四八〜四九

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その三) 第三篇

照内昇著『歯科生理学』について(抄)」森山徳長、熱田俊之助、白川尚、市之川武『日本歯科医史学会誌』一五(一)四九〜五〇

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その四) 第四篇

川上為次郎纂著『歯科薬治学』(抄)」森山徳長、西尾宏英、亀谷博昭、市之川武『日本歯科医史学会誌』一五(一)五〇〜

五一

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書の書誌学(その五) 第五篇

奥村鶴吉・遠藤至六郎『最近歯科技工学』について(抄)」森山徳長、小幡哲夫、白川尚、熱田俊之助、亀谷博昭『日本歯科医史学会誌』一五(一)五一〜五二

「軍陣歯科学(第一報) 三内軍医正、口腔外科学(抄)」落合俊輔、中村一、坂元雅明、出地弘、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)五三〜五四

「軍陣歯科学(第二報) 満州事変における歯科巡回診療時携行材料に就て(抄)」馬渡亮司、大石和久、吉田和子、鈴木邦夫、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)五四〜五五

「軍陣歯科学(第三報) 戦傷治療上における歯科技術の応用(抄)」山口秀紀、吉田直人、野口隆司、岸孝光、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)五五〜五六

「チャップリン・A・ハリス著『歯科外科学の原理と実際』(初版〜三版)の書誌学(抄)」森山徳長『日本歯科医史学会誌』一五(一)五七

「パライト氏撰著小林義直訳述『歯科提要』と独文原著および英訳本の比較検討(抄)」森山徳長『日本歯科医史学会誌』一五(一)五八〜五九

「小林義直訳『歯科提要』の初版と再版について(抄)」吉村宅弘、中野浩嗣、古瀬信久、松本好正、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)五九〜六〇

「第四回日本医学会にみられる歯科分科の内容(抄)」渋谷敏、

村木春長、渋谷幸男、古城由美子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)六〇～六一

「馬王堆漢墓医帛における歯病について(抄)」戸田一郎、別部智司、佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会誌』一五(一)六一～六二

「『太平聖恵方』における歯病の分類について(抄)」戸田一郎、別部智司、佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会誌』一五(一)六一～六三

「六朝時代の医書に現れる歯病について(抄)」戸出一郎、別部智司、佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会誌』一五(一)六三～六四

「明治中・後期の歯科医学書の比較書誌学的研究(抄)」森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会誌』一五(一)六四～六五

「佐藤運雄先生の論文について(抄)」山崎宗亨、谷津三雄、滝口久、新國俊彦『日本歯科医史学会誌』一五(一)六五～六六

「高山紀齋演述、門人和田忠筆記『通俗歯の養生法 全』について(抄)」武田和久、金子賢司、藤井敏博、池田直、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)六六～六七

「麻醉学書誌学的研究(第三報)『日本内科全書 貳卷』にみられる麻醉に関する記述(抄)」石橋肇、門平光信、瀬谷勝、武藤優子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)六八～六九

「R・Kochの消毒論について(抄)」本間邦則『日本歯科医史学会誌』一五(一)六九～七〇

「歯科における消毒」佐藤運雄訳(抄)」坂本嘉久、江川裕之、笠原広重、谷津三雄、新國俊彦『日本歯科医史学会誌』一五(一)七〇～七一

「明治期におけるヨードについて 第三報 ヨード剤の梅毒(抄)」下総高次『日本歯科医史学会誌』一五(一)七一～七二

「小泉栄次郎著『歯科材料論』の書誌学(抄)」森山徳長、田辺明、小幡哲夫『日本歯科医史学会誌』一五(一)七二～七三

「東京歯科医學院刊 広瀬武郎編『簡明歯科薬物学』の書誌学(抄)」森山徳長、西尾宏英、田辺明『日本歯科医史学会誌』一五(一)七三～七四

「福島尚純著『臨床口腔外科講義集』第一輯、第二輯および『歯科外科学 全』の書誌学(抄)」森山徳長、太田実、福本裕、白川尚『日本歯科医史学会誌』一五(一)七五～七六

「福島尚純著『口腔外科学第一・第二巻』およびその後の著書の書誌学(抄)」森山徳長、太田実、福本裕、熱田俊之助『日本歯科医史学会誌』一五(一)七六～七七

「Wells記念切手運動の意味(抄)」中原泉『日本歯科医史学会誌』一五(一)七七

「福島秀策先生の一通の書翰(抄)」杉本茂春『日本歯科医史学会誌』一五(一)七八～七九

「フォニシャル手稿の分析 手稿の訂正、加筆箇所注目して(抄)」高山直秀『日本歯科医史学会誌』一五(一)七九

「東京歯科医学院で野口英世が講義した歯科法医学について(抄)」森山徳長、福本裕、太田実、熱田俊之助『日本歯科医史学会誌』一四(一)七九〜八〇

「野口英世研究業績の発表論文による経年的・医史学的分析(抄)」森山徳長、福本裕、太田功正、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会誌』一五(一)八〇〜八一

「東京歯科医学専門学校の学制・教科書・教授陣について(その二)(抄)」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、金竹哲也『日本歯科医史学会誌』一五(二)八二〜八三

「木床義歯の超源—縄文時代の木工技術—(抄)」新藤恵久、高槻正男、遠藤吉雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)八三

「福島県舟曳町の入歯師の碑(抄)」新藤恵久、高槻正男、遠藤吉雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)八四

「風流今様曾我について(抄)」本山佐太郎『日本歯科医史学会誌』一五(一)八四

「歯科教育審議会に於いて決定せる教授要請(抄)」金子守男、北嶋まつ子、清沢美智子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)八五〜八六

「四十より、一名老人学(大正四年刊)(抄)」吉井秀鏑、宮梯伍、牧寿次、渡辺有子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)八六〜八七

「貝原養生訓について(抄)」米長悦也、大場重信、柳沼辰雄、柳沼克彦、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)八七〜八八

「日本最初の生化学書—医用化学—(抄)」谷津三雄、滝口久、新國俊彦、金子賢司『日本歯科医史学会誌』一五(一)八八〜八九

「日本歯科医師会主催の資料展覧会出品目録(抄)」谷津三雄、滝口久、金子賢司、新國俊彦『日本歯科医史学会誌』一五(一)八九〜九〇

「高山歯科医学院編『歯科薬物学』の書誌学」森山徳長、西尾宏英、熱田俊之助『日本歯科医史学会誌』一五(一)九一〜九六

「はじめてフランス語で書かれた歯科医学書(二) ユルバン・エマール著『歯の真正なる解剖』その性質および特性についての研究等の書誌学(その二)」森山徳長『日本歯科医史学会誌』一五(一)九七〜一〇一

「八束脛洞窟遺跡出土のヒトの歯(その一) 問う 縄文人の歯ではないか？」杉本茂春『日本歯科医史学会誌』一五(一)一〇二〜一〇四

「八束脛洞窟遺跡出土のヒトの歯(その二) 再び問う 縄文人の歯ではないか？」杉本茂春『日本歯科医史学会誌』一五(一)一〇五〜一〇六

「高山紀齋述『歯牙の人身に大關係を有する演述』」武田和久、渋谷敏・石橋肇、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一五(一)一〇七〜一一一

「中華民国時代における歯科医学雑誌について」周大成『日本歯科医史学会誌』一五(二)一一九〜一二五

「第五回内国勸業博覧会の歯科出品物 第二報歯磨について」大橋正敬、長谷川清、片山幸太郎、加藤保雄、掛谷昌宏、保谷賢

『日本歯科医史学会誌』一五(一) 一二六～一三八

「第五回内国勸業博覧会の歯科出品物 第三報歯ブラシおよび楊枝について」大橋正敬、仁平真佐秀、後藤尚久、加藤保雄、菊地久二、中村均志『日本歯科医史学会誌』一五(二) 一三九

～一四七

「昭和十五年刊、松本秀治著『出動地に於ける歯科診療』落合俊輔、石橋肇、谷津三雄、新國俊彦『日本歯科医史学会誌』一五(二) 一四八～一五一

「『歯学研鑽』について」坂本嘉久、石橋肇、渋谷敏、谷津三雄

『日本歯科医史学会誌』一五(二) 一五三～一五七

史跡・記念碑

「本邦帝王切開術発祥の碑」石原理年『醫譚』(五六) 六

「都下医家名墓散策(一)」伊沢蘭軒・榛軒「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(二) 一七四～一七五

「都下医家名墓散策(二)」野呂元丈「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(三) 二八六～二八七

「都下医家名墓散策(三)」奈須恒徳「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(四) 三八七～三九〇

「都下医家名墓散策(四)」荻生方庵・徂徠「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(五) 四九四～四九五

「都下医家名墓散策(五)」杉本忠温「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(六) 五九八～六〇〇

「都下医家名墓散策(六)」堀杏庵「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(七) 七〇四～七〇五

「都下医家名墓散策(七)」坂盛方院、吉田浄元・浄方「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(八) 八〇〇～八〇三

「都下医家名墓散策(八)」今村了庵「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(九) 九四五～九四七

「都下医家名墓散策(九)」内田宗春「族」小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(一〇) 一〇六八～一〇七〇

「都下医家名墓散策(一〇)」岑少翁「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(一一) 一一八五～一一八七

「失われた井上玄徹の墓(抄)」小曾戸洋『日本医史学雑誌』三四(一) 四五～四七

疾病史

「日本らい史(三三)～(三七)」山本俊一『多磨』八月二～六、九月二～六、十月二～六、十一月二～六、十二月二～六

「日本近代結核史(五)(第五章)官営富岡製糸場と『富岡日記』小松良夫『健康会議』四〇(一) 四五～五〇

「日本近代結核史(六)(第六章)R・コッホによる結核菌の発見及び『ツベルクリン療法』小松良夫『健康会議』四〇(二) 一七～二二

「日本近代結核史(七)(第七章)北里柴三郎」小松良夫『健康会議』四〇(三) 三一～三六

「日本近代結核史(八)(第八章)森鷗外―森林太郎」小松良夫『健康会議』四〇(四) 四〇～三六

「健康会議」四〇(四) 四〇～三六

「結核の治療雜感 昔と今」馬場治賢『呼吸』七(三) 三九三～三九五

「天然痘物語(一三～一五回)」松本稔『メデイヤサークル』

三三(一) 九～一二、三三(一) 五七～五九、三三(三) 九九

～一〇一

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 四 ペニシリンと Fleming」

藤野恒三郎『臨床科学』二四(一) 一一三～一二九

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 五 サルバルサン」秦 藤樹

『臨床科学』二四(一) 二五九～二六五

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 六 種痘」加藤四郎『臨床

科学』二四(三) 四一五～四二二

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 七 ヘルペス」吉野亀三郎

『臨床科学』二四(四) 五四五～五六一

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 八 野兔病」山中太木『臨

床科学』二四(五) 六六一～六八一

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 一〇 仮性小児コレラ」深

瀬泰且『臨床科学』二四(六) 九三七～九四三

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 一一 麻疹」奥野良臣『臨

床科学』二四(八) 一〇六〇～一〇六八

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 一二 肝吸虫、肺吸虫」吉村

裕之『臨床科学』二四(一〇) 一三六一～一三七〇

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 一三 ポリオ」橋爪壯『臨

床科学』二四(一一) 一四八七～一四九三

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 一四 水痘」高橋理明『臨

床科学』二四(一二) 一六一三～一六二〇

「本邦における胃癌の今昔」石川浩一『臨牀と研究』六五(八)

二三八九～二三九四

耳鼻咽喉科学史

「Lainer の三角」Killian の三角」広瀬肇 JOHNS 四(八)

一三三四～一三三六

種痘史

「医療今昔物語 学説・診療の変遷 六 種痘」加藤四郎『臨床

科学』二四(三) 四一五～四二二

獣医学史

「西洋の馬の歴史—芸術からの展望」R・A・ロンカリー『日本獣

医学雑誌』(二三) 一一～一五

「馬経大全の書誌的研究」白水完児『日本獣医学雑誌』(二三)

一六～三三

「韓国原始獣医学と漢方獣医学の影響」姜冕熙『日本獣医学雜

誌』(二三) 三四～四五

「下総御料牧場ができるまで(九) —アッブ・ジョーンズを中心

とするカリフォルニア(開拓前後)の畜産業(その二)—」谷垣

康弘『日本獣医学雑誌』(二三) 四六～五三

「新潟県山古志村における『牛の角突き』習俗に関する史的考察」

小沢国男『日本獣医学雑誌』(二三) 五四～五六

「仮名安職集の序文について」本脇祐順『日本獣医学雑誌』

(二三) 五六～五八

「明治前期渡来の獣医学畜産書と関連書(一) Vallon の馬学書に

ついで「松尾信一『日本獣医史学雑誌』(二三)五八～五九

「板倉流馬医師とその流派について」島田謙造『日本獣医史学雑誌』(二三)六〇～六一

書誌学

「古い処方集『小児方鑑』と『救民妙薬』」芳賀義昭『秋田県衛生科学研究所報』(三二)一〇七～一一一

「医史学名著解題(一四)ヨハン・B・モルガーニ『病気の座と原因』酒井シツ『医学図書館』三五(三)一五〇～一五二

「ケルスス『医学論』〔翻訳〕(二二)石渡隆司、渡辺義嗣『医事学研究』(三)二七二～三四二

「H・ブールハーフェ『医学論』宗田一『科学医学資料研究』(一六七)一～三

「緒方洪庵の『扶氏医戒之略』の解説(一)(二)森重孝『鹿児島市医報』二七(九)六六、二七(一〇)五三～五五

「吉益東洞の医説(一)『医事或問』解説(三)山本巖『漢方研究』(一九六)二二～二七

「曲直瀬玄朔伝補遺」宗田一『啓迪』(六)一〇～一二

「MUSEUM」ヒポクラテスの都』の外科学書」鈴木侃『日経メディカル』八月一〇日号二五七～二五八

「別本『仲景全書』の書誌と構成書目(抄)「真柳誠『日本医史学雑誌』三四(一)二八～三〇

「扁鵲の経絡説『三陽五会』の検討(抄)「遠藤次郎『日本医史学雑誌』三四(一)三五～三七

「いて(抄)「高島文一『日本医史学雑誌』三四(一)五六～五七

「『医心方』の伝写について(Ⅷ)半井家本の紙背文書(抄)「杉立義一『日本医史学雑誌』三四(一)五八～五九

「維摩經典の中の人間の疾患(抄)「関根正雄『日本医史学雑誌』三四(一)六三～六五

「W. Andersonの持ち帰った『病草紙』(抄)「酒井シツ『日本医史学雑誌』三四(一)八八～八九

「『扶氏経験遺訓』初訳本と刊本の異同について(抄)「中村昭『日本医史学雑誌』三四(一)九一～九三

「三瀬諸淵訳『愈里伊羅安検査書』について(抄)「会田恵ら『日本医史学雑誌』三四(一)九三～九五

「アムステルダム大学附属図書館所蔵の『解剖学表』について(抄)「酒井恒『日本医史学雑誌』三四(一)一二二～一二三

「長島浩齋著『浩齋医話』について「津田進三『日本医史学雑誌』三四(一)二七～三三

「金匱要略』の文献学的研究(第一報)元・鄧珍刊『新編金匱方論』真柳誠、小曾戸洋『日本医史学雑誌』三四(三)四一四～四三〇

「『明月記』における瘧疾の検討(続報)中村昭『日本医史学雑誌』三四(三)四三一～四四四

「『素問』陰陽応象大論篇における東風木について「戸出一郎『日本医史学雑誌』三四(三)四四五～四五七

「レメリンの『小宇宙図譜』解体書」『解体新書』より約百年前の翻訳(一)～(三)「岩治勇一『福井県医師会だより』(三二二)

二四、(三三二四)二五～二六、(三二五)一八～一九

「今昔物語集の中の医学」(五)「白崎昭一郎『北陸医史』九(一)五〇～五一

「橘南谿『黄華堂医話』の内から」黒田道宅『北陸医史』九(一)六七

「呂氏春秋における君臣論(その一)——『賢』の觀念を中心にして」岸本良彦『明治薬科大学研究紀要』(一八)一～一六

「伊藤圭介著『シーボルトへ所贈贈葉目録』(手稿本)(七)」「石山禎一『洋学史研究』(五)一～三一

「津山洋学資料館蔵『字韻集』『華音集要』なるもの——その背景と評価——」大友信一『洋学資料による日本文化史の研究』(一)一～一八

「『草木図説』の印葉図について」水野瑞夫、遠藤正治『愆齋研究会だより』(四三)二～五、八

「高富藩士伴家宛の愆齋書簡Ⅱ」遠藤正治『愆齋研究会だより』(四三)七

小児科史

「仮性小児コレラ——その学説の変遷」深瀬泰旦『川崎市小児科医学会誌』(二〇)四四～六一

「子どもと医史学(一)」「ワクチンの起源」深瀬泰旦『教育医事新聞』(四四)六

「子どもと医史学(二)」「サンドウィッチ伯爵夫人の快挙」深瀬泰旦『教育医事新聞』(四五)一〇

「子どもと医史学(三)」「ヴォルテール人痘接種を賞賛」深瀬泰旦

『教育医事新聞』(四六)一〇

「子どもと医史学(四)」「牛痘接種法の父E・ジェンナー」深瀬泰旦『教育医事新聞』(四七)一〇

「子どもと医史学(五)」「ジェンナー牛痘接種法に成功」深瀬泰旦『教育医事新聞』(四八)一一

「子どもと医史学(六)」「子供の死亡率」深瀬泰旦『教育医事新聞』(四九)一八

「子どもと医史学(七)」「ロンドン捨子養育院」深瀬泰旦『教育医事新聞』(五一)一四

「(先天性代謝異常症)」「先天性代謝異常症の最近の進歩」進歩の歴史をふりかえって」北川照男、大和田操『小児診療』五一(八)一五二九～一五三七

「日本小児外科学会の播種期」駿河敬次郎『日本小児外科学会雑誌』二四(三)五二七～五二九

「日本小児外科学会の歴史」揺らん期」植田隆『日本小児外科学会雑誌』二四(三)五三〇～五三二

「第一回日本小児外科学会創立の頃」若林修『日本小児外科学会雑誌』二四(三)五三二～五三三

「日本小児外科学会二五年のあゆみ」国際的活動」池田恵一、駿河敬次郎、長島金二ら『日本小児外科学会雑誌』二四(三)六四〇～六五八

「小児病院における小児外科」秋山洋、土田嘉昭、佐伯守洋ら『日本小児外科学会雑誌』二四(三)七三四～七五〇

「小児外科学講座」池田恵一『日本小児外科学会雑誌』二四(三)

七五一～七五七

「大学における小児外科診療科」中条俊夫『日本小児外科学会雑誌』二四(三)七五八～七七六

「スワドリング(Swaddling)と当時の小児科医たち(抄)」大野晏且『日本医史学雑誌』三四(一)一一三～一二五

「福田方」の小児諸病証論について(抄)』広田暁子『日本医史学雑誌』三四(一)五三～五五

診断学史

「微小胃癌診断 一〇年の進歩」白壁彦夫『胃と腸』二二(七)七一一～七二七

整形外科史

「鷗外の整形外科学習(一)(II)」津山直一『整形外科』三九(一)一一五～一六六、三九(二)二二七～二七八

「整形外科を育てた人達(第五六回) Wilhelm Schultness (一八五五～一九一七)」天児民和『臨床整形外科』二二(一)八二～八五

「整形外科を育てた人達(第五七回) William Heberden (一七二〇～一八〇一)」天児民和『臨床整形外科』二二(一)一八六～一八八

「整形外科を育てた人達(第五八回) Ernest Amory Codman (一八六九～一九四〇) 天児民和『臨床整形外科』二二(三)二七六～二七九

「整形外科を育てた人達(第五九回) Theodor Kocher」天児民和『臨床整形外科』二二(五)六二二～六二五

「整形外科を育てた人達(第六〇回) Augusta Klumpke (一八五九～一九二七)」天児民和『臨床整形外科』二二(六)七六八～七七七

「整形外科を育てた人達(第六一回) Friedrich Daniel von Recklinghausen (一八三三～一九一〇)」天児民和『臨床整形外科』二二(七)八六六～八六九

「整形外科を育てた人達(第六二回) Martin Kirschner」天児民和『臨床整形外科』二二(八)九八四～九八七

「整形外科を育てた人達(第六三回) Arthur Steindler (一八七八～一九五九)」天児民和『臨床整形外科』二二(九)一一三八～一一四一

「整形外科を育てた人達(第六四回) Russell A. Hibbs (一八六九～一九二二)」天児民和『臨床整形外科』二二(一〇)一二六〇～一二六三

「整形外科を育てた人達(第六五回) G.B. Amund Duchenne」天児民和『臨床整形外科』二二(一一)一三六四～一三六七

「整形外科を育てた人達(第六六回) Sir Herbert Seddon」天児民和『臨床整形外科』二二(一二)一四六八～一四七一

「商館長スチュレルの捻挫治療」片桐一男『洋学史研究』(五)七二～七五

「精神医学史」

「精神障害者福祉の問題を考える 第二回—日本の精神科医療の現状と問題点—」岡田靖雄『LYDP 情報』(日本障害者リハビリテーション協会)八(八)六～七

「精神障害者福祉の問題を考える 第二回—日本の精神科医療の現状と問題点—」岡田靖雄『LYDP 情報』(日本障害者リハビリテーション協会)八(八)六～七

「精神障害者福祉の問題を考える 第二回—日本の精神科医療の現状と問題点—」岡田靖雄『LYDP 情報』(日本障害者リハビリテーション協会)八(八)六～七

「精神障害者福祉の問題を考える 第二回—日本の精神科医療の現状と問題点—」岡田靖雄『LYDP 情報』(日本障害者リハビリテーション協会)八(八)六～七

- 「近代精神医学の黎明期　ロマン派精神医学と詩人―医師ユステ
イヌス・ケルナーをめぐる―」濱中淑彦『北野病院紀要』
三三―三五―三八
- 「癲狂病室設置に関する老烈（ローレツ）建議（明治十二年一月
二十二日）（その一）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』
（二二）一〇〇―一〇八
- 「独国大医メスマー氏著『動物電気論』（その二）」『呉秀三先生記
念精神科医療史資料通信』（二二）九一―一八
- 「神俣『精神病論』（完結）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料
通信』（二二）一九〇―二一
- 「英国癲癪人取締法（完結）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料
通信』（二二）二二〇―二二八
- 「人類の最大暗黒界癲癪病院（その七）根岸病院」『呉秀三先生記
念精神科医療史資料通信』（二二）二九〇―三二一
- 「対談　金森五郎先生に聞く―福島県での最初の精神病院開設前
後―（完結）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（二二）
三三〇―三五（「陽会病院紀要」（五）一九八七）
- 「百年むかしの診断書から」寺山晃一『呉秀三先生記念精神科医
療史資料通信』（二二）三五〇―三七（「陽会病院紀要」（五）
一九八七）
- 「精神保健法制定について思う」吉岡真二『呉秀三先生記念精神
科医療史資料通信』（二二）三八〇―四〇
- 「癲狂病室設置に関する老烈建議（完結）」『呉秀三先生記念精神
科医療史資料通信』（二二）一〇一―四
- 「独国大医メスマー氏著『動物電気論』（完結）」『呉秀三先生記
念精神科医療史資料通信』（二三）五〇―四四
- 「B・シエイ『Die Krankheiten der Warmen Länder』より
日本の憑きものについての記載」『呉秀三先生記念精神科医療
史資料通信』（二三）一五〇―一八
- 「落花生『東京精神病院を覗く』」『呉秀三先生記念精神科医療史
資料通信』（二三）一九〇―二一
- 「清水耕一『精神病看護法』（その一）」『呉秀三先生記念精神科医
療史資料通信』（二三）二一〇
- 「人類の最大暗黒界癲癪病院（完結）小松川精神病院・七病院の
分類、焦眉の矯正策」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』
（二三）二二二―二二六
- 「木村健一『金子元路婦長（浦和神経サナトリウム）に聞く』」
『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（二三）二七〇―三一
- 「精神保健法は改正前より前進か後退か」『呉秀三先生記念精神
科医療史資料通信』（二三）三七〇―三八
- 「江澤圭磨『犬神附或ハ狸神附ノ説』」『呉秀三先生記念精神科医
療史資料通信』（二四）一〇―四
- 「小池正直『犬神附ハ一精神病タルノ説』」『呉秀三先生記念精神
科医療史資料通信』（二四）五〇―九
- 「W. Grisinger: "Die Pathologie und Therapie der psychischer
Krankheiten" よりデモノメランコリー例」『呉秀三先生記念精
神科医療史資料通信』（二四）一〇〇―一二
- 「高尾山薬王院お札（狐にのる飯綱権現）、静岡県周智郡山住村

なお礼(狐よけのお犬様)』『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一四)はさみこみ

「清水耕一『精神病看護法』(その二)』『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一四)一三〜一九

「清水耕一『新撰看護学』(その二)』『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一四)二〇〜二六

「呉秀三在職十年祝賀記念アルバム補遺(その一)(門弟写真)』

「『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一四)二七

「民族衛生振興の建議』『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一四)二八〜三五

「国の公的責任を問う」吉岡眞二『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一四)三六〜三七

「わが国の精神医学の曙」岡田靖雄『精神医学』三〇(三)二七五〜二八二

「わが国の精神病学にたいする来日外人医学教師の貢献(抄)」岡田靖雄『日本医史学雑誌』三四(一)一四〜一六

「許浚の医の理念『道』精神身体医学』三木栄『日本医事新報』(三三三五六)五九〜六一

「わが国の精神科医療の歴史①―相馬事件―」岡田靖雄 BIO medica Ⅲ(一)八九〜九三

「わが国の精神科医療の歴史②―私宅監置調査と呉秀三―」岡田靖雄 BIO medica Ⅲ(三)八九〜九三

「わが国の精神科医療の歴史③―国は精神疾患患者のために何をしてきたか―」岡田靖雄 BIO medica Ⅲ(四)九六〜九九

“Ueber die Eintheilung der Krankheiten” Paul Julius Möbius

山岸洋、波多野和夫、濱中淑彦訳『精神医学』三〇(一一)

一二四〜一二五〇

“Ueber die Eintheilung der Krankheiten” Paul Julius Möbius

山岸洋、波多野和夫、濱中淑彦訳『精神医学』三〇

(一二)一三七一〜一三七九

「新精神保健法は前進か」岡田靖雄『労働の科学』四三(一一)

三八〜四一

生化学史

「ビタミンD研究を支えてきた人々(一八) Andea Prader

(一九一九〜)松尾宣武『中外医薬』四一(三)二〇七〜二一〇

「ビタミンD研究を支えてきた人々(一九)藤田拓男(一九二九

〜)森井浩世『中外医薬』四一(四)二七四〜二七八

「ビタミンD研究を支えてきた人々(二〇) Alfred Fabian Hess

(一八七五〜一九三三)島蘭順雄『中外医薬』四一(五・六)

三四六〜三五〇

「ビタミンD研究を支えてきた人々(二一) Gack W. Coburn

(一九三二〜)黒川清『中外医薬』四一(七)四一三〜四一八

「ビタミンD研究を支えてきた人々(二二) Steven L. Teichbaum

(一九三八〜)田中弘之、清野佳紀『中外医薬』四一(八)

四七六〜四七九

「ビタミンD研究を支えてきた人々(二三) Paul A. Price

(一九四二〜)浜本洋子『中外医薬』四一(九)五四九〜

五三三

「二重螺旋の発見(一)〜(六)科学者の性格と業績」篠原兵庫『日本医事新報』(一)(三三四三)五九〜六三(二)(三三四四)六五〜六八、(三)(三三四五)六六〜七〇(四)(三三四六)六五〜六八、(五)(三三四七)六六〜七〇(六)(三三四八)六三〜六六

『骨代謝研究』を支えてきた人々(第一回)T.J. Martin

(一九三七)窪田実『日本骨代謝学会雑誌』六(一)三〇〜

三四

『骨代謝研究』を支えてきた人々(第二回)I.G. Raiz

(一九二五)鈴木不二男『日本骨代謝学会雑誌』六(一)七〇

〜七五

『骨代謝研究』を支えてきた人々(第三回)Herbert Fleisch

(一九三三)篠田寿『日本骨代謝学会雑誌』六(四)五四〜

六〇

地 方 史

「蘭学と大阪の医学」長門谷洋治『大阪春秋』(五三)三九〜四三

「明治の鹿児島医学史(二〇)〜(二四)」森重孝『鹿児島市医報』

二七(三)五五〜五九、二七(五)二八〜三三、二七(七)

三九〜四二、二七(九)六二〜六四、二七(一一)六三〜六六

「明治維新以後佐伯郡下の洋方医学研究活動の推移と芸備医学会」小野遼二『佐伯郡医会百周年記念特集号』一九〜二一

「志太地区医史跡探訪記」大井正剛『静岡県医史学懇話会会誌』

(四)二六〜三三

「青森県東通村の地域医療史 医師・医療機関を中心に」今泉忠

淳、松谷一億、松田恵司ら『地域医学』二(三)四三〜四七

「大分県医学史から」中西淳朗『梅園研究』梅園逝去二〇〇年記

念特集(六)七三〜七四

「診療の変遷 野兎病」山中太木『臨床科学』二四(五)六六一

〜六八一

「九州の医療史 十七世紀まで」羽田春兔『臨床と研究』六五

(一)一〜二

治 療 史

「輸血の歴史」村上省三『Bio medica』III(一〇)一〇六四〜

一〇六七

伝 記

「長与衛生文庫(三) 専斎の生誕地肥前・大村を訪ねて」堀江幸

司、松田明子、平川裕子『医学図書館』三五(一)四一〜五七

「シーボルトよりも一三三年前に来日した医師ケンペルを讃え

る」田崎啓介『いずみ』三五(六)二〜三

「郷里の北里柴三郎」石原理年『醫譚』(五六)一五

「ヒポクラテス医学の人間と技術 この医学派の人間愛と技術愛

の意味するもの」大槻真一郎『医学哲学 医学倫理』(六)九一

〜一〇二

「本間清雄の一面について」鈴木東洋『いわちどり』(一六)七一

〜七二

「戸塚柳斎の世界―生誕二〇〇年にちなんで―」舟木茂夫『いわ

ちどり』(一六)七二〜八四

「大分県医療史 ルイス・ド・アルメイダと三浦梅園」荒巻逸夫

- 『大分医師会誌』六(二)八八～一〇〇
- 「『相良知安先生 記念碑』と『ポードワン 博士像』東京医学校と上野恩賜公園」堀江幸司『医学図書館』三五(三)一八四～一九一
- 「医学史ニ博物館三〇 続ウィリアム・ハーヴェイの時代」大村敏郎『医学のあゆみ』一四七(四)二七六
- 「医学史ニ博物館三一 パリの『一般病院』という制度」大村敏郎『医学のあゆみ』一四七(九)七七六
- 「医学史ニ博物館三二 シャンパンの夢」大村敏郎『医学のあゆみ』一四七(一一・一二)九七六
- 「ウィリアムス・ストークスとその業績」酒井シヅ『科学医学資料研究』(一七一)七～九
- 「鹿児島の女医第一号か」森重孝『鹿児島市医報』二七(八)三五～三六
- 「Arnold Pick」原田憲『Clinical Neuroscience』六(一)一〇六
- 「Josef Gerstmann」中西雅夫、浜中淑彦『Clinical Neuroscience』六(一)二三四
- 「Carl Friedrich Otto Westphal」原田憲『Clinical Neuroscience』六(三)三四一
- 「Sergel Sergeevich Korsakoff」石井毅『Clinical Neuroscience』六(四)四六三
- 「Josph Godwin Greenfield」厚東篤生『Clinical Neuroscience』六(五)五七八
- 「Franz Nissl」大谷克巳、徳永勲『Clinical Neuroscience』六(六)六九一
- 「内村祐之」秋元波留夫『Clinical Neuroscience』六(七)八二〇
- 「Ernest Charles Laségue」高橋昭『Clinical Neuroscience』六(八)九四〇
- 「Glovis Vincent」吉岡真澄『Clinical Neuroscience』六(九)一〇五六
- 「時実利彦」鳥居鎮夫『Clinical Neuroscience』六(一〇)一七一一
- 「G.B.A. Duchenne」古川哲雄『Clinical Neuroscience』六(一一)一一八〇
- 「C. von Economo」横井晋『Clinical Neuroscience』六(一二)一三九四～一三九五
- 「曲直瀬玄朔伝補遺」宗田一『啓迪』(六)一〇～一三
- 「女医の道」筋 わが母・吉岡弥生の素顔」吉岡博人、大森安恵『Clinical Magazine』一五(五)一八～二三
- 「大村達斎」その事跡と達斎をめぐる人々」藤田俊夫『啓迪』(六)二一～二五
- 「エドワード・シエンナーの像(その一)(その二)」加藤四郎『げんや』一八(一)二五～二八、一八(二)二七～三〇
- 「エドワード・シエンナーをめぐる謎」加藤四郎『げんや』一八(一)三～二二、一八(二)四四～五一
- 「シーボルトの Faunal Japonica」緒方富雄『げんや』一七(四)一九～三五
- 「ユスティヌス・ケルナーの生涯と作品」宮崎忠男、上島求、

小林淳『ごころの臨床ア・ラ・カルト』七(二)一九七～

二〇二

「戸塚柳齋の医学」舟木茂夫『静岡県医史学懇話会会誌』(四)

二〇一

「カミロ・ゴルジについて」藤田尚男『細胞』二〇(一〇)

四〇四～四〇七

「座談会 高木兼寛を語る(上)(下)」阿部正和、酒井シヅ、高

木秀寛他 JAMA(九月号)五四～六一、一〇六～一一二

「華岡青洲を巡る五〇の謎」松木明知 Journal of Japanese Society

of Hospital Pharmacists 二四(二)一七三～一七六

「私の順天堂回想録 その一 佐藤達次郎先生と私」大野大『順

天堂医学』三四(三)四三〇～四三一

「シーボルトの究極」野田茂徳『新医療』一五(九)一三八～

一三九

「ヒルデガルト・フォン・ビンゲンの世界(一)生いたちと背景

の時代」真壁伍郎『綜合看護』二三(一)七～一六

「近代日本におけるナイチンゲール伝記」吉川竜子『綜合看護』

二三(二)七～二〇

「歴史上の人物と糖尿病 藤原道長」兼子俊男 Diabetics Journal

一六(一)三七～四一

「シーボルト雑記帖一三 品川の娼家と町並 贈答品のこと」吉

岡達夫『東洋薬事報』二九(四)二四～二六

「シーボルト雑記帖一四 ニッポンの医者階級と医科の分け方

シーボルトに夢中な二人の大名」吉岡達夫『東洋薬事報』二九

(五)二四～二六

「シーボルト雑記帖一五 將軍に謁見 ケンベルの場合とシーボ

ルトの場合」吉岡達夫『東洋薬事報』二九(六)二四～二六

「シーボルト雑記帖一六 江戸滞在中の来訪者たち―最上徳内、

大槻玄沢、高橋作左衛門―」吉岡達夫『東洋薬事報』二九(七)

二四～二六

「シーボルト雑記帖一七 間宮林蔵の樺太地図 シーボルトが入

手した経緯」吉岡達夫『東洋薬事報』二九(八)二四～二六

「シーボルト雑記帖一八 シーボルト事件(Ⅰ)大型台風とオラ

ンダ船ハウトマン号」吉岡達夫『東洋薬事報』二九(九)二四

～二六

「シーボルト雑記帖一九 シーボルト事件(Ⅱ)作左衛門逮捕、

シーボルトへの訊問書」吉岡達夫『東洋薬事報』二九(一〇)

二四～二六

「シーボルト雑記帖二〇 シーボルト事件(Ⅲ)シーボルトへの

訊問書(Ⅱ)」吉岡達夫『東洋薬事報』二九(一一)二四～二六

「シーボルト雑記帖二一 シーボルト事件(Ⅳ)連座した人たち」

吉岡達夫『東洋薬事報』二九(一二)二四～二六

「シーボルト雑記帖二二 日本妻お滝と、娘のお稻(Ⅰ)」吉岡達

夫『東洋薬事報』三〇(一)二四～二六

「シーボルト雑記帖二三 日本妻お滝と、娘のお稻(Ⅱ)」吉岡達

夫『東洋薬事報』三〇(二)二四～二六

「シーボルト雑記帖二四 オランダに帰って故国バイエルン大騒

ぎ」吉岡達夫『東洋薬事報』三〇(三)二四～二六

- 「豊中市における外国人墓地とA・D・ヘル」長門谷洋治『豊中市医師会月報』(七) 七二～七三
- 「岡山医学校時代の石井十次(下) 神の愛の実践に向けて」葛井義憲『名古屋学院大論集 人文自然科』二五(二) 一五七～一九二
- 「古代ローマの医学の“最高峰”ガレヌス」鈴木侃『日経メディカル』一七(三) 二三四～二三五
- 「ヒポクラテスの孤独な戦い」二宮陸雄『日経メディカル』一二(七) 二二六～二二七
- 「ボードインの来日とその意義(抄)」石田純郎『日本医史学雑誌』三四(一) 九～一三
- 「ボンベが日本で行なった医学講義 とくに内科と外科の講義内容(抄)」大島蘭三郎『日本医史学雑誌』三四(二) 二二
- 「倉公淳于意(その一)(抄)」家本誠一『日本医史学雑誌』三四(一) 二五～二七
- 「篠崎医院小児科坪井芳治医師(抄)」泉彪之助『日本医史学雑誌』三四(一) 七二～七三
- 「金沢藩に禄仕の三宅復一について(抄)」寺畑喜朔『日本医史学雑誌』三四(一) 九八～一〇〇
- 「初期医学教育におけるバストゥールの意義(抄)」大村敏郎『日本医史学雑誌』三四(一) 一〇七～一〇九
- 「A・J・ボードイン書簡について」石田純郎『日本医史学雑誌』三四(二) 一七一～一八六
- 「稲村三伯と『三伯稲荷神社』その他について」森納『日本医

- 史学雑誌』三四(二) 二〇二～二〇五
- 「E・ペルツとツツガムシ病」安井広『日本医史学雑誌』三四(二) 二三二～二四四
- 「中野操先生略歴・著作目録」長門谷洋治『日本医史学雑誌』三四(二) 三二六～三三二
- 「岩崎灌園のシーボルト関係手稿」矢部一郎『日本医史学雑誌』三四(三) 五一五～五一九
- 「御雇教師ミェルレルとホフマン(二)」小関恒雄『日本医史学雑誌』三四(四) 五八五～六〇〇
- 「東京大学構内ベルツ、スクリバ銅像の建設経緯」小関恒雄『日本医事新報』(三三三三三) 六一～六四
- 「病理解剖の先覚者・小石元俊のこと」長与健夫『日本医事新報』(三三三三三) 六一～六三
- 「前野良沢と中津」川島真人『日本医事新報』(三三三五) 六五～六六
- 「藤野敢九郎の生涯」泉彪之助『日本医事新報』(三三五七) 五九～六一
- 「湯島の長谷川泰銅像の顛末(上)(下)」小関恒雄、尾崎邦雄『日本医事新報』(三三三六) 六三～六五、(三三六三) 六二～六三
- 「中津藩の蘭学大名(上) 奥平昌鹿」川島真人『日本医事新報』(三三六四) 五九～六一
- 「創成期の日本における看護教育指導者 M.E. Rende の招聘に当ってアメリカ・プレスビテリアン・ミッションとの関連を探

る 高木兼寛と宣教医 J.C. Hobburn を中心として (抄)]

坪井良子ら『日本看護学会一九〇〇年集録』(看総合) 九九〜一〇一
[Dr. Albrecht von Koretz に関するオーストリア国内の文献に
らる(一)] 小形利彦、Dr. Erich Rabl, Anton Kurz『日本

大学山形高等学校研究紀要』(一三) 一〜一〇
[アフリカにおける野口英世博士] 大立目信六『熱帯』二一

八四〜八八
[梅園の『仙原』に見られる条理思想] 壺井秀生『梅園研究』梅

園逝去二〇〇年記念特集(六) 一〜一
[梅園と神龍] 宝蔵莊主人『梅園研究』梅園逝去二〇〇年記念特

集(六) 一二〜一九
[一元氣論の医家たちと三浦梅園] 和田耕作『梅園研究』梅園逝

去二〇〇年記念特集(六) 二〇〜三〇
[古学派と梅園の思想Ⅱ] 浜松昭二朗『梅園研究』梅園逝去二〇

〇年記念特集(六) 三二〜四四
[梅園文語賞語刻料] について 小串信正『梅園研究』梅園逝去

二〇〇年記念特集(六) 四五〜六一
[弁証法の矛盾とはなにか] 垂繪子『梅園研究』梅園逝去二〇〇

年記念特集(六) 六二〜六九
[梅園没後二百年によせて] 山田一美『梅園研究』梅園逝去二〇

〇年記念特集(六) 七〇〜七二
[梅園『造物余譚』を読んで] 大江須美子『梅園研究』梅園逝去

二〇〇年記念特集(六) 七五〜七七
[梅園研究会に学んで] 河野範子『梅園研究』梅園逝去二〇〇年

記念特集(六) 七八〜七九

[資料『讀元照論蹉跌録』] 辛島詢士『梅園研究』梅園逝去二〇〇
年記念特集(六) 八〇〜九五

[中国哲学固有の概念・範疇の研究について] 張岱年、浜松昭二
朗訳『梅園研究』梅園逝去二〇〇年記念特集(六) 九六〜

一一一
[梅園「吉雄耕牛が西洋眼鏡絵を贈ってきたことに謝す」(現代
語訳)] 『梅園研究』梅園逝去二〇〇年記念特集(六) 一二〜

一一八
[名医列伝 華岡外科の大成者 本間玄調] 蔵方宏昌『ばんぶ

う』(七九) 一六二〜一六三
[名医列伝 折衷派(考証学派) 医学を集大成 多紀元簡] 蔵方

宏昌『ばんぶう』(八〇) 一六二〜一六三
[名医列伝 ギリシャ医学を体系化 ガレノス] 蔵方宏昌『ばん

ぶう』(八一) 一四六〜一四七
[名医列伝 晩学の天才の漢方医 中神琴溪] 蔵方宏昌『ばんぶ

う』(八二) 一六〇〜一六一
[名医列伝 幕末に全身麻酔で大手術を敢行 華岡青洲] 蔵方宏

昌『ばんぶう』(八三) 一六〇〜一六一
[名医列伝 狂犬病と軍陣医学の専門書を著す 原南洋] 蔵方宏

昌『ばんぶう』(八四) 一六〇〜一六一
[名医列伝 朝鮮通信使を驚嘆させた漢方医 岡本玄調] 蔵方宏

昌『ばんぶう』(八五) 一六〇〜一六一
[名医列伝 明治期漢方最後の巨頭 浅田宗伯] 蔵方宏昌『ばん

ぶう』(八六) 一六〇〜一六一

- 「ぼう」(八六)一六〇～一六一
- 「名医列伝 和漢洋の医術を使い分けた町医 中川修亭」蔵方宏昌『ばんぼう』(八七)一四〇～一四一
- 「名医列伝 世界で初めて頸椎運動制限の原因を発見した整骨医各務文猷」蔵方宏昌『ばんぼう』(八八)一六〇～一六一
- 「名医列伝 精神病者の鎖を断ち切った精神科医 ビネル」蔵方宏昌『ばんぼう』(八九)一四〇～一四一
- 「名医列伝 実証的薬物療法を樹立 香川修庵」蔵方宏昌『ばんぼう』(九〇)一四〇～一四一
- 「笠井完の生涯と電子顕微鏡の商業化」朝倉健太郎、安達公一『微生物』四(六)五一四～五二四
- 「慶応義塾・初代塾長古川正雄とその調査余談」江川義雄『広島県医師会速報』(一三〇)一三〇～一三一
- 「ひろしま医人伝①小山内元洋(建)―洋書の訳述と草創期医学の恩人―」江川義雄『広島市医師会だより』(二六三)四一～四三
- 「ひろしま医人伝②須田哲造―初代広島県立病院長兼医学学校長―」江川義雄『広島市医師会だより』(二六四)二二～二四
- 「ひろしま医人伝③野村文夫―その家系の医人たち―」江川義雄『広島市医師会だより』(二六五)三八～四一
- 「ひろしま医人伝④呉黄石―江戸医学所・広島医学所の助教―」江川義雄『広島市医師会だより』(二六六)一九～二二
- 「ひろしま医人伝⑤西有慶―その家系の医人たち―」江川義雄『広島市医師会だより』(二六七)二五～二七
- 「ひろしま医人伝⑥長瀬時衡―広島に来た軍医たち(一)―」江川義雄『広島市医師会だより』(二六九)三六～三八
- 「蘭医スロイスの日本到着」寺畑喜朔、石田純郎『北陸医史』九(一)一～三
- 「館籠とその箱書」館秀夫『北陸医史』九(一)二五
- 「ある村医の記録―明治四十年、釧路国厚岸郡浜中村―」正橋剛二、松田健史『北陸医史』九(一)一〇～二四
- 「蘭医スロイスの日本到着」寺畑喜朔、石田純郎『北陸医史』九(一)三五～三七
- 「卯辰山養生所舎密局で活躍した高峰昇(元稹)と丘村隆桑」加藤豊明『北陸医史』九(一)三八～四九
- 「本邦女医第二号 生沢くのについて」長門谷洋治『北陸医史』九(一)五二～五五
- 「加賀藩に來仕した宇田川玄真の高弟藤井方亭とその子孫」加藤豊明『北陸医史』九(一)五八～六六
- 「柏倉忠肅のこと並びにその血族について(二〇)～(三八)」小竹英夫『北海道医報』(六六四)七六～七七、(六六五)三〇～三一、(六六六)四四～四五、(六六七)三〇～三一、(六六八)一八～一九、(六六九)三〇～三一、(六七〇)一〇～一一、(六七二)三四～三五、(六七三)一〇～一一、(六七四)五〇～五一、(六七五)一八～一九、(六七六)一六～一七、(六七七)二六～二七、(六七八)三八～三九、(六七九)二四～二五、(六八〇)二二～二三、(六八一)二二～二三、(六八二)一六～一七

「先達医家の肖像 (一六) Dominique Jean Larrey」酒井シツ
Medical Digest 三十四 (一)

「先達医家の肖像 (一七) Gerard van Swieten」酒井シツ Medical
Digest 三十四 (一)

「先達医家の肖像 (一八) Johann Peter Frank」酒井シツ Medical
Digest 三十四 (三)

「先達医家の肖像 (一九) Ignaz Philipp Semmelweis」酒井シツ
Medical Digest 三十四 (四)

「先達医家の肖像 (二〇) Julius Wagner-Jauregg」酒井シツ
Medical Digest 三十四 (五)

「先達医家の肖像 (二一) Constantin von Economo」酒井シツ
Medical Digest 三十四 (六)

「医史跡紀行 (四) 長崎シーボルトの足跡」西来武治 Medical
News (二九八) 一五～一八

「医史跡紀行 (五) 東京 伊藤玄朴とお玉ヶ池痘痘所」西来武治
Medical News (二九九) 一五～一八

「医史跡紀行 (六) 神奈川 横浜と宣教区「ボン」」西来武治 Med-
ical News (三〇〇) 一五～一八

「医史跡紀行 (七) 京都 新宮庭と順正書院」西来武治 Med-
ical News (三〇一) 一五～一八

「医史跡紀行 (八) 石川 黒川良安と医学館」西来武治 Medical
News (三〇二) 一五～一八

「医史跡紀行 (九) 千葉 佐藤泰然・尚中と順天堂」西来武治
Medical News (三〇三) 一五～一八

『「星」言語録(その一)』三澤美和『薬史学雑誌』二三 (一)
九八～一〇一

「ロイトルとその医学的背景」石田純郎『洋学資料による日本文
化史の研究』一 二九～五六

『蘭山先生日記』に見る愍齋Ⅳ「遠藤正治」愍齋研究会だより
(四二) 七

「本草学史における榕菴と愍齋—西洋植物学の受容—」矢部一郎
『愍齋研究会だより』(四二) 二～六

「高富藩士伴家宛の愍齋書簡Ⅱ」遠藤正治『愍齋研究会だより』
(四一) 五

「愍齋と吉田平九郎」安江政一『愍齋研究会だより』(四二) 二～
四

「高富藩士伴家宛の愍齋書簡Ⅰ」遠藤正治『愍齋研究会だより』
(四〇) 二～六

「初代王立外科アカデミー会長ジャン・ルイ・プティの横顔」大
村敏郎『臨床外科』四三 (三) 三三五

「オテル・デュ病院のデュビュイトラン像」大村敏郎『臨床外
科』四三 (一) 一六四〇

「先人の業績をしのんで 恩師石原誠先生(一)」問田直幹『臨床
と研究』六五 (七) 赤ページ一七～一八

「Prof. Erwin Bälz と九州来訪」天児民和『臨床と研究』六五
(八) 一三～一四

「Leonardo da Vinci の医学への貢献」天児民和『臨床と研究』
六五 (一〇) 青ページ一七～一八

伝記(双)

- 「胸部外科創刊(昭和二十三年)ごろの生き残り外科医の思い出」
武田義章『胸部外科』四一(四)三一一～三二二
- 「淀藩医竹岡家について」杉立義一『啓迪』(六)一四〇～二〇〇
- 「中世ヨーロッパに医学の火を灯す人々」鈴木侃『日経メディカル』一七(七)二二三～二二四
- 「エルメレンス、ローレッツ、マンسفフェルトの顕微鏡的医学指導(抄)」藤野恒三郎『日本医史学雑誌』三四(一)二〇～二一
- 「高橋瑞と荻野久作(抄)」安井広『日本医史学雑誌』三四(一)八四～八六
- 「医師赤川支樑と松岡茂章(抄)」田中助一『日本医史学雑誌』三四(一)三〇～三二
- 「幕末明治期来日医学関係者リスト作成について(抄)」長門谷洋治『日本医史学雑誌』三四(一)六～八
- 「魯迅と二人の医師」泉彪之助『日本医事新報』(三三四六)五九～六二
- 伝染病史・防疫史**
- 「感染症病原論の歴史的展望」スピロヘータ時代「ワイル病の病原スピロヘータ発見」稲田・井戸の快拳」藤野恒三郎『微生物』四(四)三六七～三七五
- 「研究室内での感染の問題」ペスト菌発見当時の話」藤野恒三郎『Medical Tribune』二二(四六)四三三
- 東洋医学史**
- 「中国古代医学の価値観を論ず」範以農『医学哲学 医学倫理』
- (六)一四五～一五一
- 「鍼灸師から見た華陀の医術(一)」宇田明男『医道の日本』四七(一一)五八～六一
- 「漢方史景二二(二七) 痔の歴史(上)(中)(下)(下四)」藏方宏昌『漢方診療』(七)五四～五五、(七)四二～四三、(七)二二～二三、(七)二〇～二一、(七)一八～一九、(七)四〇～四一
- 「漢方古典文献概説(二〇)南宋代の医薬書(その一)」小曾戸洋『現代東洋医学』九(一)八七～九三
- 「漢方古典文献概説(二〇)南宋代の医薬書(その二)」小曾戸洋『現代東洋医学』九(二)七九～八五
- 「漢方古典文献概説(二〇)南宋代の医薬書(その三)」小曾戸洋『現代東洋医学』九(三)九六～一〇四
- 「漢方古典文献概説(二〇)南宋代の医薬書(その四)」小曾戸洋『現代東洋医学』九(四)九六～一〇三
- 「中国医学と道教(Ⅷ)扶鸞(抄)」吉元昭治『日本医史学雑誌』三四(一)三八～四〇
- 「曲直瀬玄朔の遺言状」宗田一『日本医史学雑誌』三四(一)一三七～一四七
- 「許浚の医の理念『道』精神身体医学」三木栄『日本医事新報』(三三五六)五九～六一
- 「中国医学の癌治療頭頸部を中心に」藤井一省『カレントテラピー』六(六)八四五～八五五
- 「漢方医学の歴史の変遷(一九)曲直瀬正琳」安井広迪『Kampo』

六(一) 一一～一四

「漢方医学の歴史的変遷(二〇) 施薬院全宗」安井広迪 Kamppō
六(二) 三八～三九

「中国少数民族医学概説(上)(下)」三浦於菟『漢方研究』

(二〇三) 九～一四、(二〇四) 一九～二三

「鍼灸医学史(一〇)(一一)」石原明『経絡治療』二〇(一)

五二～五八、(四) 五九～六四

「続・三皇の医史学的考察 陰陽五行への反省(四)(五)」遠藤

昭伸『経絡治療』(九三) 一八～二二、三九、(九四) 二一～

二三

「口絵 目でみる漢方史料館(七) 井上玄徹自賛肖像」小曾戸洋

『漢方の臨牀』三五(三) 二二四～二二五

「ハノイでみつけた『皇漢医学』」津谷喜一郎『漢方の臨牀』三五

(三) 二七九～二八四

「口絵 目でみる漢方史料館(八) 『百腹図説』」花輪寿彦『漢方

の臨牀』三五(四) 三二四～三二五

「曲直瀬養安院家の人々」補遺 曲直瀬正貞の墓碑銘」小曾戸

洋『漢方の臨牀』三五(四) 三七二～三七五

「口絵 目でみる漢方史料館(九) 『本草品彙精要』」ロンドン図

書館旧蔵本」大塚恭男『漢方の臨牀』三五(五) 四二八～

四三一(『日本医史学雑誌』二四(二)より抜抄)

「東洋医学書における生薬使用の特徴に関する図形表現について

その(二)」遠田裕政、雨宮修二、岡本洋明ら『漢方の臨牀』

三五(五) 四六一～四六九

「藤平健先生による傷寒論解説(二) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』

をテキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五

(五) 四七〇～四七二

「口絵 目でみる漢方史料館(一〇) 二千年前の医療器具」小

曾戸洋『漢方の臨牀』三五(六) 五三六～五三七

「藤平健先生による傷寒論解説(二) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』

をテキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五

(六) 五七六～五七九

「鑑真大和上の秘方訶梨勒丸の再現と『医心方』風病篇現代訳の

誤訳」渡辺武、古米弘幸、中島誠二『漢方の臨牀』三五(六)

五八〇～五九二

「口絵 目でみる漢方史料館(一一) 宋版『太平聖恵方』」小曾

戸洋『漢方の臨牀』三五(七) 六四〇～六四二

「藤平健先生による傷寒論解説(三) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』

をテキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五

(七) 六八九～六九三

「口絵 目でみる漢方史料館(一二) 吉益家門人録二種」奥田

本『深川本』矢数道明『漢方の臨牀』三五(八) 七五二～

七五四

「藤平健先生による傷寒論解説(四) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』を

テキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五(八)

七八〇～七八六

「吉益東洞著『薬徴』を評す」張金璽『漢方の臨牀』三五(八)

七八七～七九四

- 「医心方」風病篇 訶梨勒丸の方現代訳についての私見」桜井謙介『漢方の臨牀』三五(八) 八〇四～八〇六
- 「マニラの『中医師』」津谷喜一郎『漢方の臨牀』三五(八) 八〇七～八一三
- 「奥田本『東洞先生門人帳』」矢数道明『漢方の臨牀』三五(八) 八二四～八三六
- 「口絵 目でみる漢方史料館(一三) 針灸銅人形と銅人腧穴針灸図経」残石「小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(九) 八六八～八七一
- 「藤平健先生による傷寒論解説(五) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』をテキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五(九) 九〇六～九一一
- 「『五雲子腹候論』について―帰化明人の腹診書―」中村昭『漢方の臨牀』三五(九) 九二八～九三五
- 「奥田本『南涯北洲二先生門人拔萃録』」矢数道明『漢方の臨牀』三五(一九) 九三六～九四四
- 「フィリピンの中医学」津谷喜一郎『漢方の臨牀』三五(九) 九四八～九五五
- 「口絵 目でみる漢方史料館(一四) 吉益東洞の肖像と遺墨」小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(一〇) 九九六～九九九
- 「巻頭言 奥田本『吉益東洞先生門人帳』を読んで」吉元昭治『漢方の臨牀』三五(一〇) 一〇〇五
- 「藤平健先生による傷寒論解説(六) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』をテキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五(一〇) 一〇五二～一〇五九
- 「幕府典薬頭今大路家の転居」宗田一『漢方の臨牀』三五(一〇) 一〇六〇～一〇六七
- 「深川本『吉益南涯門』(一) 矢数道明『漢方の臨牀』三五(一〇) 一〇七一～一〇九二
- 「目でみる漢方史料館(一五) 吉益南涯の遺墨」小曾戸洋『漢方の臨牀』三五(一一) 一一二四～一一二六
- 「吉益家北上の意義」多留淳文『漢方の臨牀』三五(一一) 一一三一
- 「藤平健先生による傷寒論解説(七) 奥田謙蔵著『傷寒論講義』をテキストとして」千葉古方漢方研究会『漢方の臨牀』三五(一一) 一一一六五～一一七〇
- 「『難経』五十八難及び『傷寒論』傷寒例における「陽虚陰盛」、「陽盛陰虚」について」今泉清『漢方の臨牀』三五(一一) 一一七一～一一七五
- 「深川本『吉益南涯門』(二) 矢数道明『漢方の臨牀』三五(一一) 一一八八～一九五
- 「中国医学の簡易化―口訣の伝統―」大塚敬節、安井広迪補遺『漢方の臨牀』三五(一二) 一三八一～一三九五
- 「日本の小児科領域の歴史にみられるプラグマティズム(実用主義)の精神」広田睦子『漢方の臨牀』三五(一二) 一三九七～一四一〇
- 「湯本求真先生医籍文庫について」伊藤敏雄『漢方の臨牀』三五(一二) 一四二二～一四三三

「鍼と『易経』」間中喜雄『漢方の臨牀』三五(一一)一四六〇～一四七七

「古矢『知白薬名象義』意釈抄」小曾戸丈夫『漢方の臨牀』三五(一二)一四九九～一五一一

「『生学堂傷寒約言』(統)」西岡一夫『漢方の臨牀』三五(一二)一五二二～一五二八

「漢方医学と和魂漢才」吉岡信『漢方の臨牀』三五(一二)一五一九～一五二八

「ある典薬頭(幕府)の叙任」『商山年譜』から」宗田一『漢方の臨牀』三五(一二)一五二九～一五四〇

「『醫者意也』について」杉立義一『漢方の臨牀』三五(一二)一五四二～一五四三

「東洋医学史上の精神病とその治療」山田光胤『こころの科学』(一七)三八～四二

「西洋における鍼灸(抄)」マフトロジヨバンニ・フランク『全日鍼灸会誌』三八(一)八一

「『黄帝内经素問』の現代的解釈」松本克彦『中医臨床』九(二)一二二～一三〇

「中国医学の歴史の変遷と理論形成(一)(二)」松本克彦『東洋医学』一六(一)三九～四三、一六(二)八三～八八

「中国古代における精神病疾患(一)」中国古代における非『理性』の問題」石田秀実『東洋医学』一六(二)三三三～三七

「中国古代における精神病疾患(二)」石田秀実『東洋医学』一六(三)九九～一〇二

「中国古代における精神病疾患(三)」石田秀実『東洋医学』一六(四)六五～六九

「古医書における漢方の使い方」[Na86]小青竜湯△その一▽」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九九(一)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na87]小青竜湯△その二▽」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九九(二)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na88]小青竜湯△その三▽」麦門冬湯△その一▽」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九九(三)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na89]麦門冬湯△その二▽」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』九九(四)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na90]麦門冬湯△その三▽」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』九九(五)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na91]滋陰降火湯△その一▽」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』九九(六)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na92]滋陰降火湯△その二▽」陰至宝湯△その一▽」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』九九(七)カラー図説

「古医書における漢方の使い方」[Na93]滋陰至宝湯△その二▽」竹

箱温胆湯^{じょういんたんとう}ハその一V」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』九九(八) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No94〕竹箱温胆湯^{ちくせういんたんとう}ハその二V」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』九九(九) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No95〕葛根湯^{かこんたう}ハその一V」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九九(一〇) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No96〕葛根湯^{かこんたう}ハその二V」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九九(一一) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No97〕葛根湯^{かこんたう}ハその三V」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九九(一二) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No98〕葛根湯^{かこんたう}ハその四V」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』一〇〇(一) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No99〕升麻葛根湯^{しょうまかこんたう}ハその一V」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』一〇〇(二) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No100〕升麻葛根湯^{しょうまかこんたう}ハその二V」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』一〇〇(三) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No101〕升麻葛根湯^{しょうまかこんたう}ハその三V」

菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』一〇〇(四) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No102〕参蘇飲^{さんそいん}ハその一V」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』一〇〇(五) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No103〕参蘇飲^{さんそいん}ハその二V」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』一〇〇(六) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No104〕桔梗湯^{きやうげいとう}」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』一〇〇(七) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No105〕辛夷清肺湯、川芎茶調散^{せんいせいはいとう、せんきゅうちやうたん}」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』一〇〇(八) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No106〕半夏白朮天麻湯^{はんげはくじやくてんまとう}ハその一V」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』一〇〇(九) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No107〕半夏白朮天麻湯^{はんげはくじやくてんまとう}ハその二V」呉茱萸湯^{ごしゆいとう}ハその一V」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』一〇〇(一一) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No108〕呉茱萸湯^{ごしゆいとう}ハその二V」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』一〇〇(一二) カラー図説

「古医書における漢方の使い方〔No109〕呉茱萸湯^{ごしゆいとう}ハその三V」

小半夏加茯苓湯ハその一V」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』一〇〇〇(一三三) カラー図説

内科史

「循環器学の歴史一三 病理解剖学の樹立」酒井シヅ『循環科学』

八(一) 六八〜七二

「循環器学の歴史一四 打診法の発明」酒井シヅ『循環科学』八

(一) 二〇二〜二〇五

「循環器学の歴史一五 狭心症」酒井シヅ『循環科学』八(三三)

三三二〜三三六

「循環器学の歴史一六 十八世紀の治療薬—ジギタリス」酒井シヅ『循環科学』八(四) 四七〇〜四七四

「循環器学の歴史一七 十九世紀の循環器病学」酒井シヅ『循環科学』八(五) 五七四〜五七七

「循環器学の歴史一八 聴診器の発明」酒井シヅ『循環科学』八

(六) 六九二〜六九五

「循環器学の歴史一九 十九世紀初頭のイギリス医学」酒井シヅ

『循環科学』八(七) 七九四〜七九七

「循環器学の歴史二〇 ダブリン学派の人々」酒井シヅ『循環科

学』八(八) 九二二〜九一六

「循環器学の歴史二一 弁膜症」酒井シヅ『循環科学』八(九)

一〇二二〜一〇二六

「循環器学の歴史二二 ドイツ学派の循環器病学(一)」酒井シヅ

『循環科学』八(一〇) 一一四二〜一一四五

「循環器学の歴史二三 ドイツ学派の循環器病学(二)」酒井シヅ

『循環科学』八(一〇) 一一四二〜一一四五

「循環器学の歴史二四 十九世紀の循環器病学研究史」酒井シヅ

『循環科学』八(一一) 一三六二〜一三六五

皮膚科史

「ムラージュをめぐって」長門谷洋治『日本医史学雑誌』三四

(二) 二九四〜三〇三

病院史

「上田市医師会附属医学史料館報(一八六)〜(一九七) 柳沢病院

の記録(五)〜(一六)」柳沢文秋『上田市医師会報』一八(一)

一五、一八(二) 一五、一八(三) 一三〜一四、一八(四)

二一、一八(五) 一七、一八(六) 一五、一八(七) 一九、一八

(八) 一六、一八(九) 一九〜二〇、一八(一〇) 一六、一八

(一一) 一五、一八(一二) 一六

「石川県金沢病院編輯の医事雑誌について」寺畑喜朔『醫譚』

(五六) 一〜六

「病院の歴史—その概念と機能の変遷」石田純郎『醫譚』(五六)

七〜一五

「聖バルナバ病院」藤田剛一『大阪春秋』(五三) 九〇〜九四

「豊後府内病院の所在位置と規模について(抄)」東野利夫『日本

医史学雑誌』三四(一) 八九〜九〇

「血清薬院」小高健『日本医史学雑誌』三四(三) 三八六〜

四一三

病跡学

「武田信玄の死因考(上)(下)」久萬田泰昌『大塚薬報』

(四二六) 七一～七二、(四二七) 四三～四五

「癩癩の歌人藤原定家について」津川武一『健康会議』四〇(二) 四六～四八

「カルテ人間模様 一三 正岡子規(その五)」立川昭二『東洋薬事報』二九(四) 一八～二〇

「カルテ人間模様 一四～一六 乃木希典(その一)～(その三)」立川昭二『東洋薬事報』二九(五) 一八～二〇、二九(六) 一八～二〇、二九(七) 一八～二〇

「カルテ人間模様 一七 人力車」立川昭二『東洋薬事報』二九(八) 一八～二〇

「カルテ人間模様 一八～二二 夏目漱石(その一)～(その五)」

立川昭二『東洋薬事報』二九(九) 一八～二〇、二九(一〇) 一八～二〇、二九(一一) 一八～二〇、二九(一二) 一八～二〇、三〇(一) 一八～二〇

「カルテ人間模様 二三 松井須磨子(その一)～(その二)」立川昭二『東洋薬事報』三〇(二) 一八～二〇、三〇(三) 一八～二〇

風俗史

「美術に現われた医と薬 笠森(瘡守) 稻荷と笠森お仙 笠森稻荷ほか」宗田一『医学ジャーナル』二四(三) 図説、二四(四) 図説

「日本の売薬(一三四)(一三五)」「外篇」皮膚病の守り神・笠森(瘡守) 稻荷(その一)～(その二)」宗田一『医薬ジャーナル』二四(三) 二二九～二三三、二四(四) 九一～九一四

本草学・博物学史

「尾張の本草学の歴史①黎明期の尾張本草学」水野瑞夫、遠藤正治『日本の生物』二(五) 一七～二〇

「尾張の本草学の歴史②嘗百社の成立」水野瑞夫、遠藤正治『日本の生物』二(六) 一四～一七

「尾張の本草学の歴史③尾張本草学の展開」水野瑞夫、遠藤正治『日本の生物』二(七) 一七～二〇

「尾張の本草学の歴史④本草学から植物学へ」水野瑞夫、遠藤正治『日本の生物』二(八) 一七～二〇

「尾張の本草学の歴史⑤尾張から美濃」水野瑞夫、遠藤正治『日本の生物』二(九) 一六～一九

「尾張の本草学の歴史⑥幕末・明治の尾張本草学」水野瑞夫、遠藤正治『日本の生物』二(一〇) 一七～二〇

麻醉学史

「日本における脊椎麻醉の歴史(四) 大正時代(一九一二～一九二六)」松木明知『麻醉』三七(五) 六〇七～六〇九

門人録

「多紀雲從門人録について」矢数道明『日本医史学雑誌』三四(一) 二〇六～二一六

「吉益東洞・南涯・北洲、三代の門人録『奥田本』について(抄)」矢数道明『日本医史学雑誌』三四(一) 四二～四四

薬学史

「朝鮮人参耕作記の歴史(抄)」安江政一『日本医史学雑誌』三四(一) 五一～五三

「近代蝦夷地における薬種のありよう(四) 薬療双紙」水島宣昭
『日本医事新報』(三三三二七) 六八～六九

「明治時代における中国地方の薬学教育」小山鷹二『薬史学雑誌』二三(一) 一～八

「田古慶成著『人参作立方尋日記』について」安江政一『薬史学雑誌』二三(一) 九～一八

「肥後村井家の叢桂园」浜田善利『薬史学雑誌』二三(一) 一九～二七

「明治期を中心とした中国産薬用生薬の輸入についての考察一、特に初期における大黄の輸入量、並びに価格の変遷について」播磨章一『薬史学雑誌』二三(一) 二八～三六

「史料 オランダ一八六五年医務関係法規と山崎文庫『和蘭一医務条例・製薬開業制度』(そのⅡ)」川瀬清『薬史学雑誌』二三(一) 三七～五三

「わが国近世薬学、薬業の問題点—ヨーロッパ薬学受容の基盤—」吉岡信『薬史学雑誌』二三(一) 五五～六五

「日本薬局方に見られたタンニン酸製剤の変遷」松本仁人、山田光男『薬史学雑誌』二三(一) 六六～七一

「日本への近代薬学導入のいきさつ(一)」安江政一『薬史学雑誌』二三(一) 七二～八六

「近代日本医薬薬品産業の発展(その一) 明治以前の医薬品の貿易・薬の流通および売薬の変遷」山田久雄『薬史学雑誌』二三(一) 八七～九七

「アヘン戦争の薬学的考察」宮崎正夫『薬史学雑誌』二三(一) (一)

一〇二—一〇

「オランダ一八六五年医務関係法規と山崎文庫『和蘭一医務条例・製薬開業制度』(そのⅢ) オランダ一八六五年法第六一号と山崎文庫『和蘭製薬開業の制度』」川瀬清『薬史学雑誌』二三(一) 一一～一九

蘭学史

「淀藩に於ける蘭学」杉立義一『日本医史学雑誌』三四(一) 二四五～二六二

「ペリー来航直前における黒田斉溥の対外建白書『阿風説』の基礎的研究」岩下哲典『洋学史研究』(五) 三二～五八

「幕末開港期長崎における華僑の流入型態をめぐって」長田和之『洋学史研究』(五) 五九～七一

リハビリテーション関係史

「わが国のリハビリテーション医学 二五年の歩みを振り返って(抄)」大川嗣雄ら『リハビリテーション医学』二五(一) 五四～六三

その他

「オランダにおける岩倉使節団」宮永孝『社会労働研究』三四(一) 一～六九

「表紙のことは 臨終者の聖体拝領」酒井シヅ『手術』四二(一) 七

「表紙のことは 初のエーテル麻酔の公開実験」酒井シヅ『手術』四二(一) 一三九

「表紙のことは エジプトの医神イムホテプ」酒井シヅ『手術』

- 四二(三) 二七
「表紙のことば」頸骨の手当をする医師「酒井シヅ『手術』四二(四) 三九四
「表紙のことば」朝鮮戦争と野戦病院「酒井シヅ『手術』四二(五) 五〇三
「表紙のことば」病人の脈をとる医者「酒井シヅ『手術』四二(七) 九二二
「表紙のことば」椅子に縛りつけられた患者「酒井シヅ『手術』四二(八) 一〇二九
「表紙のことば」手の外科「酒井シヅ『手術』四二(九) 一一八四
「表紙のことば」内反足の手術「酒井シヅ『手術』四二(一〇) 一二九八
「表紙のことば」脊椎側彎の背筋「酒井シヅ『手術』四二(一一) 一五四〇
「表紙のことば」デジエリンの神経図「酒井シヅ『手術』四二(一二) 一七〇七
「医史学って何?」酒井シヅ JMC『全医協連ニュース』No.三一、三〇～三一
「明治末期の阪急宝塚沿線の景況」長門谷洋治『豊中市医師会雑誌』(二七) 五〇～五一
「医史学と私」赤松金芳『日本医史学雑誌』三四(二) 三二三～三三三
「医史学と私」服部敏良『日本医史学雑誌』三四(二) 三三四～三四二
「医史学と私」古川明『日本医史学雑誌』三四(三) 四七三～四八三
「医史学と私」王丸勇『日本医史学雑誌』三四(三) 四八四～四八七
「医史学と私」矢数道明『日本医史学雑誌』三四(三) 四八八～四九九
「医史学と私」大鳥蘭三郎『日本医史学雑誌』三四(三) 五〇〇～五〇五
「医史学と私」富士川英郎『日本医史学雑誌』三四(四) 六〇一～六〇六
「医史学と私」田中助一『日本医史学雑誌』三四(四) 六〇七～六一四
「医史学と私」杉靖三郎『日本医史学雑誌』三四(四) 六一五～六二四
「医史学と私」関根正雄『日本医史学雑誌』三四(四) 六二五～六三〇
「朝鮮通信使との医事問答」吉田忠『日本文化研究所研究報告』(二四集) 二七～六九
「大野藩洋学館旧蔵の写真術入門書—写真術導入の資料—」岩治勇一『福井県医師会だより』(三一五) 一七
「北陸医史」第九卷第一号誌の発刊に寄せて」加藤豊明『北陸医史』九(二) 一～二
「清水文庫の設立について」寺畑喜朔『北陸医史』九(二) 三〇

三〇四

「土井利忠公の洋印補遺—キリシタン事項について—」岩治勇一『北陸医史』九(一)五六～五七

「鍊金術記号から現代化学元素記号へ—その一—鍊金術記号」大槻真一郎『明治薬科大学研究紀要』(一八)一～四五

「官版・独逸単語篇」のドイツ語について」高橋輝和(吉備洋学資料研究会)『洋学資料による日本文化史の研究』一 五七～八二

中国語文献

「我国瘧疾流行簡史(一九四九年前)」何斌『中華医史雜誌』一八(一)一～八

「海南島医学史略」林篠海、林詩泉『中華医史雜誌』一八(二)九～一二

「我国古代職業病史初探」周秀達、黄永源『中華医史雜誌』一八(一)一三～一五

「晋代婦産科学術成就」馬大正『中華医史雜誌』一八(一)一六～一九

「陳士鐸及其著作」李今垣『中華医史雜誌』一八(一)二〇～二四

「湖北近代西医教育」高潮、李宗臣、陳一彦『中華医史雜誌』一八(一)二五～二八

「三〇年代の全国海港検疫管理処与伍連德博士」楊上池『中華医史雜誌』一八(一)二九～三二

「苗族医学發展概要」譚学林『中華医史雜誌』一八(一)三三～

三五

「文芸復興至十八世紀的護理史」虞孝国、程之范『中華医史雜誌』一八(一)三六～三九

「△妙聞集」記載的古印度外科学」張敏『中華医史雜誌』一八(一)四〇～四四

「印度古代薬学略述」許光『中華医史雜誌』一八(一)四五～四七

「試論宋代△傷寒論」研究的主要成就」趙国平『中華医史雜誌』一八(一)四八～五三

「△黄帝内經」成書年代」孫曼之『中華医史雜誌』一八(一)五四～五五

「△五十二病方」の按摩医学」孫其斌、苟延德『中華医史雜誌』一八(一)五六～五七

「△肘后方」和△補輯肘后方」評論」王寧『中華医史雜誌』一八(一)五八～六一

「永樂宮壁畫中の医薬衛生活動」張厚埔『中華医史雜誌』一八(一)六一～六四

「扁鵲脈学研究」廖育群『中華医史雜誌』一八(一)六五～六九
「秦漢時期医制述論」彭衛『中華医史雜誌』一八(一)七〇～七四

「先秦眼科史略」彭清华『中華医史雜誌』一八(一)七五～七八

「莊綽生平考略」吳繼東『中華医史雜誌』一八(一)七九～八〇
「解放戦争時期華北部隊の戦傷救治工作」閻文仲、『中華医史雜誌』一八(一)八一～八五

- 「我國航運衛生保健簡史」孫約翰『中華醫史雜誌』一八(二)八六～八九
- 「江西中醫專門學校史」黃素英、吳躍進『中華醫史雜誌』一八(二)九〇～九三
- 「永嘉募辦普安施藥局簡史」李珍『中華醫史雜誌』一八(二)九四～九六
- 「清末衛生警察的創立及歷史作用」雀蓮玉『中華醫史雜誌』一八(二)九七～九八
- 「腦電波研究溯源」秦潮『中華醫史雜誌』一八(二)九九～一〇〇
- 「人類精神活動功能定位研究的反思」高也陶『中華醫史雜誌』一八(二)一〇一～一〇四
- 「瘧疾發現史略」許龍善『中華醫史雜誌』一八(二)一〇五～一〇七
- 「蒙醫學術流派及代表人物」額日很巴圖『中華醫史雜誌』一八(二)一〇八～一一二
- 「涼山彝族疾病觀」李耕冬『中華醫史雜誌』一八(二)一一三～一一四
- 「《濟陰綱目》考述」姜亞洲、李明廉『中華醫史雜誌』一八(二)一一五～一一八
- 「徐靈胎醫著初考」呼素華『中華醫史雜誌』一八(二)一一九～一二二
- 「《武威漢代醫簡》疑難詞求義」王輝『中華醫史雜誌』一八(二)一二二～一二三
- 「敦煌本《本草經集注》序錄》和《証類本草》引陶隱居序的考察」尚志鈞『中華醫史雜誌』一八(二)一二四～一二六
- 「關於地方醫學史編寫的幾個問題」趙石麟『中華醫史雜誌』一八(二)一二七～一二八
- 「中醫古籍校勘史簡述」杜同仿『中華醫史雜誌』一八(三)一二九～一三四
- 「《論衡》血脈學內容及其醫史價值」毛良『中華醫史雜誌』一八(三)一三五～一三八
- 「《溫疫論》版本及注家」楊進『中華醫史雜誌』一八(三)一三九～一四一
- 「中國醫學史分期之我見」何愛華『中華醫史雜誌』一八(三)一四二～一四五
- 「醫學家宋向元」甄志亞『中華醫史雜誌』一八(三)一四六～一四九
- 「試論中外科治療特點的形成和發展(摘要)」任旭『中華醫史雜誌』一八(三)一五〇～一五三
- 「中醫基本理論各學說具有基本獨立的發展過程」袁琦『中華醫史雜誌』一八(三)一五四～一五八
- 「中央蘇區醫學教育史略」張興榮等『中華醫史雜誌』一八(三)一五九～一六六
- 「《圖經本草》的藥用植物學成就」羅桂環『中華醫史雜誌』一八(三)一六七～一七一
- 「歐洲十九世紀的護理工作(南丁格爾前)」虞孝國、程之范『中華醫史雜誌』一八(三)一七二～一七六

- 「衰老理論研究的歷史概述」武鵬、徐維廉『中華醫史雜誌』一八(三)一七七～一八一
- 「清代著名雜醫毛拉艾孜·和田尼及阿克薩拉依」孫建德『中華醫史雜誌』一八(三)一八二～一八四
- 「拉祜族傳統醫藥衛生(一九五九年前)」龐毅『中華醫史雜誌』一八(三)一八五～一八九
- 「福鼎畬族醫藥衛生情況調查」林上卿、李声國『中華醫史雜誌』一八(三)一九〇
- 「生殖文化·馬王堆醫書的牝牡入內經」的陰陽」袁鍾『中華醫史雜誌』一八(四)一九三～一九九
- 「宋代政府對醫藥發展所起的作用」鄭金生『中華醫史雜誌』一八(四)二〇〇～二〇六
- 「中國古代史料中的幾種耳科病候」楊大俊『中華醫史雜誌』一八(四)二〇七～二一〇
- 「元代中外醫藥交流初探(摘要)」廖果『中華醫史雜誌』一八(四)二一一～二一六
- 「外感熱病學說的演變(摘要)」曹東義『中華醫史雜誌』一八(四)二一七～二二二
- 「中國服石煉丹與衰淺論(摘要)」王振瑞『中華醫史雜誌』一八(四)二二三～二二八
- 「試論北宋政府與醫學的關係(摘要)」張瑞賢『中華醫史雜誌』一八(四)二二九～二三三
- 「中國古代口腔粘膜炎的研究(摘要)」王珣『中華醫史雜誌』一八(四)二三四～二三九

「子午流注 靈龜 飛騰八法發展簡史(摘要)」漆浩『中華醫史雜誌』一八(四)二四〇～二四四

「西方流行病學史略」高潮『中華醫史雜誌』一八(四)二四五～二四八

「朝醫四象醫學發展簡史」張文宣『中華醫史雜誌』一八(四)二四九～二五二

「評僑僑慎初」中國藥學史網」蔡景峰『中華醫史雜誌』一八(四)二五三～二五四

歐文文獻

PRESSMAN, Jack, D.: Sufficient promise; John F. Fulton and the origins of psychosurgery. BULL. HIST. MED. 62(1): 1~22

La BERGE, Ann F.: Edwin Chadwick and the French connection. BULL. HIST. MED. 62(1): 23~41

GARTER, K. Codell: The Koch-Pasteur dispute on establishing the cause of anthrax. BULL. HIST. MED. 62(1): 42~57

BONNER, Thomas Neville: Medical woman abroad; a new dimension of women's push for opportunity in medicine, 1850~1914. BULL. HIST. MED. 62(1): 58~73

BULLOUGH, Vern, L.: Katharine Bement Davis, sex research, and the Rockefeller foundation. BULL. HIST. MED. 62(1): 74~89

LAWRENCE, Susan C.: Entrepreneurs and Private Enterprise; The Development of Medical Lecturing in London, 1775~

1820. BULL. HIST. MED. 62(2): 171~192
- LAWRENCE, Christopher: Alexander Monro Primus and the Edinburgh Manner of Anatomy. BULL. HIST. MED. 62(2): 193~214
- MITCHELL, Allan: Obsessive Questions and Faint Answers; The French Response to Tuberculosis in the Belle Epoque. BULL. HIST. MED. 62(2): 215~235
- DERICKSON, Alan: Federal Intervention in the Joplin Silicosis Epidemic, 1911~1916. BULL. HIST. MED. 62(2): 236~251
- WHITE, Suzanne: Mom and Dad (1944); Venereal Disease "Exploitation". BULL. HIST. MED. 62(2): 252~270
- BRATTON, Timothy L.: The Identity of the New England Indian Epidemic of 1616~19. BULL. HIST. MED. 62(3): 351~383
- JACYNA, L.S.: The Laboratory and the Clinic: The Impact of Pathology on Surgical Diagnosis in the Glasgow Western Infirmary, 1875~1910. BULL. HIST. MED. 62(3): 384~406
- GEVITZ, Norman: Autonomous Profession or Medical Specialty; The Stomatological Movement and American Dentistry. BULL. HIST. MED. 62(3): 407~428
- SEIPP, Conrad: Organized Medicine and the Public Health Institute of Chicago. BULL. HIST. MED. 62(3): 429~441
- ATWATER, Edward C.: American Association for the History of Medicine: Report of the Sixty-first Annual Meeting. BULL. HIST. MED. 62(3): 450~460
- DUFFIN, Jacalyn: Vitalism and Organicism in the Philosophy of R.-T.-H. Laennec. BULL. HIST. MED. 62(4): 525~545
- WRIGHT, JR, James R.: The 1917 New York Biopsy Controversy; A Question of Surgical Incision and the Promotion of Metastases. BULL. HIST. MED. 62(4): 546~562
- GELFAND, Toby: "Mon Cher Docteur Freud"; Charcot's Unpublished Correspondence to Freud, 1888~1893. BULL. HIST. MED. 62(4): 563~588
- GOLDEN, Janet: From Wet Nurse Directory to Milk Bank; The Delivery of Human Milk in Boston, 1909~1927. BULL. HIST. MED. 62(4): 589~605
- BORST, Charlotte G.: The Training and Practice of Midwives; A Wisconsin Study. BULL. HIST. MED. 62(4): 606~627
- NAKAJIMA, Akira & SAKAI, Shizu: History of the Japanese Ophthalmological Society. DOC. OPHTHALMOL. 68: 171~176
- EPLER, JR, Dean, C.: The Concept of Disease in an Ancient Chinese Medial Text, The Discourse on Cold-Damage Disorders (Shang-Han Lun). J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(1): 8~35
- GEVITZ, Norman: "A Coarse Sieve"; Basic Science Boards

- and Medical Licensure in the United States. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(1): 36~63
- ROSNER, Lisa.: The Professional Context of Electrotherapeutics. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(1): 64~82
- CARMICHAEL Ann. G. and SILVERSTEIN, Arthur M.: Smallpox in Europe before the Seventeenth Century; Virulent Killer or Benign Disease? J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(2): 147~168
- GILLETT, Mary C.: Medical Care and Evacuation during the Philippine Insurrection, 1899~1901. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(2): 169~185
- DOLEV, Eran: A Gland in Search of a Function; The Parathyroid Glands and the Explanations of Tetany, 1903~1926. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(2): 186~198
- CHERNIN, Eli: Sir Ronald Ross vs. Sir Patrick Manson; A Matter of Libel. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(3): 262~274
- KEATING, Peter: Vaccine Therapy and the Problem of Opsonins. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(3): 275~296
- JANOWITZ, Henry D. and TINTNER, Adeline, R.: An Anglo-American Consultation; Sir William Osler Refers Henry James to Sir James Mackenzie. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(3): 297~308
- WILSON, Leonard G.: Lloyd Grenfell Stevenson, 1918~1988, Medical Historian and Man of Letters. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(4): 377~385
- ROSNER, David: A Note About George Rosen and His Final Paper. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(4): 386~390
- ROSEN, George: Urbanization, Occupation and Disease in the United States, 1870~1920; The Case of New York City. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(4): 391~425
- RISSE, Guenter B.: Britannia Rules the Seas; The Health of Seamen, Edinburgh, 1791~1800. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(4): 426~446
- TAYLOR, Eugene: On the First Use of 'Psychoanalysis' at the Massachusetts General Hospital, 1903 to 1905. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 43(4): 447~471
- FRONIMOPOULOS, J. and STEFANELIS, J.: Four legends about Hippocrates Collectd by Mr Zarakas of he Village Pili-Cos. HIST. OPHTHALMOL. (1): 3~8
- JAEGER, Wolfgang: Eye votives in Greek antiquity. HIST. OPHTHALMOL. (1): 9~17
- WEALE, Robert: Leonald and the eye. HIST. OPHTHALMOL. (1): 19~34
- LASCARATOS, John & MARKETOS, Spiros: Ophthalmological lore in the Corpus Hippocraticum. HIST. OPHTHALMOL. (1): 35~45
- AMALRIC, Pierre: The Representation of the eye in African and

- Oceanian art. HIST. OPHTHALMOL. (1): 47~56
- den TONKELAAR, Isolde, HENKES, E. Harold and van LEERSUM, Gijsbert, K.: The Utrecht Ophthalmic Hospital and the development of tonometry in the 19th century. HIST. OPHTHALMOL. (1): 57~63
- den TONKELAAR, Isode, HENKES, Harold, E. and van LEERSUM, K.: The Utrecht Ophthalmic Hospital and the development of the ophthalmoscope. HIST. OPHTHALMOL. (1): 65~69
- JAEGER, Wolfgang: The foundation of experimental ophthalmology by Theodor Leber. HIST. OPHTHALMOL. (1): 71~77
- ALBERT, Daniel M. and BLODI, Frederick C.: Georg Joseph Beer; A review of his life and contributions. HIST. OPHTHALMOL. (1): 79~103
- STRAUB, Wolfgang: The first German textbook of ophthalmology "Augendienst" by G. Bartish, 1583. HIST. OPHTHALMOL. (1): 105~114
- SACHSENWEGER, Rudolf: The professors of ophthalmology at the University of Leipzig in the first half of the 20th century. HIST. OPHTHALMOL. (1): 115~120
- FRONIMOPOULOS, J. and LASCARATOS, J.: "Eye Injuries" by the Byzantine writer Aetios Amidinos. HIST. OPHTHALMOL. (1): 121~124
- van NOUHUYS, C.E.: The lacrimal surgery of Petrus Camper and his contemporaries. HIST. OPHTHALMOL. (1): 125~133
- WAGEMANS, Marianne and van BIJSTERVELD, O. Paul: The French Egyptian campaign and its effects on ophthalmology. HIST. OPHTHALMOL. (1): 134~144
- TENGROTH, Björn: The appointment of Johan Widmark to the first chair in ophthalmology in Stockholm 1891. HIST. OPHTHALMOL. (1): 145~156
- LASCARATOS, John and MARKETS, Spiros: A historical outline of Greek ophthalmology from the Hellenistic period up to the establishment of the first universities. HIST. OPHTHALMOL. (1): 157~169
- NAKAJIMA, Akira and SAKAI, Shizu: History of the Japanese Ophthalmological Society. HIST. OPHTHALMOL. (1): 171~176
- CHAN, Eugene: The general development of Chinese ophthalmology from its beginnings to the 18th century. HIST. OPHTHALMOL. (1): 177~184
- RISSE, Guenter B.: Hysteria at the Edinburgh Infirmary; the construction and treatment of a disease. 1770~1800. MED. HIST. 32(1): 1~22
- FORBES, Thomas, R.: A jury of matrons. MED. HIST. 32(1): 23~33

RUSHTON, Peter: Lunatics and idiots; mental disorder, the community, and the poor law in north-east England 1600~1800. MED. HIST. 32(1): 34~50

BERRIDGE, Virginia: The origins of the English drug "scene" 1890~1930. MED. HIST. 32(1): 51~64

TAYLOR, D.W.: 'Discourses on the human physiology' by Alexander Monro primus (1697~1767). MED. HIST. 32(1): 65~81

CHERNIN, Eli: Sir Ronald Ross, malaria and the rewards of research. MED. HIST. 32(2): 119~141

FILDES, Valerie: The English wet-nurse and her role in infant care 1538~1800. MED. HIST. 32(2): 142~173

BROWN, P.S.: Nineteenth-century American health reformers and early nature cure movement in Britain. MED. HIST. 32(2): 174~194

ORME, Nicholas: Mortality in fourteenth-century exeter. MED. HIST. 32(2): 195~203

ADAMSON, P.B.: Dracontiasis in Antiquity. MED. HIST. 32(2): 204~209

PORTER, Dorothy and PORTER, Roy: The politics of prevention; anti-vaccinationism and public health in nineteenth-century England. MED. HIST. 32(3): 231~252

DASEN, Véronique: Dwarfism in Egypt and classical antiquity; iconography and medical history. MED. HIST. 32(3): 253~

276

NICOLSON, Malcolm: The metastatic theory of pathogenesis and the professional interests of the eighteenth-century physician. MED. HIST. 32(3): 277~300

LEWES, F.M.M.: Dr Marc D'Espine's statistical nosology. MED. HIST. 32(3): 301~313

LÖWY, Ilana: Immunology and literature in the early twentieth century; Arrowsmith and The doctor's dilemma. MED. HIST. 32(3): 314~332

GWEI-DJEN, LU. and NEEDHAM, Joseph: A history of forensic medicine in China. MED. HIST. 32(4): 357~400

HARDY, Anne: Urban famine or urban crisis? Typhus in the Victorian city. MED. HIST. 32(4): 401~425

TAYLOR, Jeremy: Circular hospital wards; Professor John Marshall's concept and its exploration by the architectural profession in the 1880s. MED. HIST. 32(4): 426~448

LONGFIELD-JONES, G.M.: The case history of 'Sir H.M.'. MED. HIST. 32(4): 449~460

SZRETER, Simon: The Importance of Social Intervention in Britain's Mortality Decline 1850~1914; a Re-interpretation of the Role of Public Health. SOC. HIST. MED. 1(1): 1~37

DAVIES, Celia: The Health Visitor as Mother's Friend: A woman's place in public health, 1900~14. SOC. HIST.

- MED. 1(1): 39~59
- RAWCLIFFE, Carole: The Profits of Practice; the Wealth and Status of Medical Men in Later Medieval England. SOC. HIST. MED. 1(1): 61~78
- KROMM, J.E.: Archives and Sources; Goya and the Asylum at Saragossa. SOC. HIST. MED. 1(1): 79~89
- PELLING, Margaret: Child Health as a Social Value in Early Modern England. SOC. HIST. MED. 1(2): 135~164
- JONES, Helen: Women Health Workers; The Case of the First Women Factory Inspectors in Britain. SOC. HIST. MED. 1(2): 165~181
- LOUDON Irvine: Maternal Mortality; 1880~1950. Some Regional and International Comparisons. SOC. HIST. MED. 1(2): 183~228.
- CRAWFORD, E. Margaret: Scurvy in Ireland during the Great Famine. SOC. HIST. MED. 1(3): 281~300
- SMITH, L.D.: Behind Closed Doors; Lunatic Asylum Keepers, 1800~60. SOC. HIST. MED. 1(3): 301~327
- BRÄNDSTRÖM, Anders: The Impact of Female Labour Conditions on Infant Mortality; A Case Study of the Parishes of Nedertorneå and Jokkmokk, 1800~96. SOC. HIST. MED. 1(3): 329~358
- HORDEN, Peregrine: A discipline of Relevance; the Historiography of the later medieval hospital. SOC. HIST. MED. 1(3): 359~374
- RICE, G.W.: Social history of medicine in New Zealand; Report of two conferences, indicating future directions. SOC. HIST. MED. 1(3): 409~414
- ZIMMERMANN, Volker: Krankheit und Gesellschaft; Die Pest. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 1~13
- LEISER, Gary and DOLS, Michaels.: Evliyā Chelebi's Description of Medicine in Seventeenth-Century Egypt. Part II; Text. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 49~68
- OEHME, Johannes: Pädiatrie im 18. Jahrhundert. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 83~97
- SCHÜTT Hans Werner, and Pohl für Windaus: Zum optischen Nachweis eines Vitamins'. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 98
~
- NEUMANN, Josef: Hauptströmungen medizinischer Wissenschaftstheorie in Deutschland nach 1945. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 133~153
- SCBUBERT, Charlotte: Organisches Leben als Kreisbewegung; Zur Bedeutung der Kreismetaphorik in der Naturphilosophie F.W.J. Schellings. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 154~159
- REICHENEDER, Johann Georg: Cocaineuphorie und Naturwissenschaft. SUDHOFFs ARCH. 72(1): 170~184
- NEUMANN, Hans-Joachim and ERBEN, Norbert: Leben und Werk Martin Luthers aus medizinischer Sicht-ein Interpretation

tionsversuch. SUDHOFFS ARCH. 72(1): 185~198

RIBA Ortrun and FISCHER, Wiltrud: Harndiagnostik bei
Isaak Judaeus, Gilles des Corbeil und Ortolf von Baierland,
SUDHOFFS ARCH. 72(1): 212~224

BEUKERS, Harm: Background of Dutch doctors in Japan
during the Bakumatsu-Meiji Period. 『日本医史学雑誌』 34
(1):1